

≡ギルド剣士 台本

●第1章

レ「どうした、ボク？」

ギルドの募集掲示板なんか見つめて。

そんなところをいくら見ても、

はぐれたママは見つからないぞ？」

ヨ「何？ いっしょに冒険をする仲間を探している？」

ああ、そうかそうか。すまないなあ、ボウヤ。

ずいぶんと若いから勘違いしてしまったよ。

確かに、よくよく見れば装備をしている。

確かに私たちと同じ、冒険者みたいだね。」

レ「イヤになるね、まったく…。」

キミほどの若い男の子でさえ、剣を取る時代か。

まだまだママに甘えて、おっぱいでも飲んでいたい年だというのに。」

ヨ「ふふ…。そんなことはないって？

私たちからすれば、似たようなものに見えるがね。

仲間もない、冒険者になりたてのかわいい子供じゃないか。」

レ「でも、安心していいよ。

あたしたちがボクの仲間になってあげるよ。

あたしたちはボクみたいな、心優しい男の子の味方なんだ。」

ヨ「ああ、そうだ。

さあ、まずは親睦を深めようじゃないか。

マスター、この子―いや、彼にも酒を…ん？

どうした、ボウヤ？

…断るだって？　へえ…。また、なぜ？

私たちでは不満だとても？」

レ「…なんだ、あたしたちのこと、知ってたのか。

冒険者なりたてにしてはよく勉強してるじゃないか。

そう、あたしは剣士ソルティ・レイ。

熟練の冒険者だよ。」

ヨ「私は剣士ヨル。ボウヤもご存じの通り、有名人さ。

だが…それならわかってるだろう？

私たちの誘いを断ることなんて、できないはずだって…ね？」

レ「ボクみたいな小っちゃい男の子なんて、剣を抜くまでもない。

デコピン一発でぶっとばしてやるんだから。

大人しく…私たちと飲みなさい。」

ヨ「本当に私たちの誘いを断るつもりかどうか…。

楽しく一杯やってからでも遅くはないだろう？

ふふふ…。

では、改めて…マスター、酒だ。

この店で一番、上等なものをな。」

レ「じゃあまずは、ボクが冒険者になろうと思ったきっかけでも、

聞かせてもらおうかな…。

ふふふふふ…っ。」

ヨ「思った通り…たった一杯でダウンか。

まあ、当然だな。」

レ「あの強い酒を飲むには、まだ若すぎたねえ、ボク？

ふふふ…。」

ヨ「さて、ボウヤ。

酔っ払ってべろべろで、動けないだろうが…聞いてくれるかな？

ボウヤが知ってる、私たちの情報は…。

手練れの剣士というだけかな？」

レ「それとも…。

人前で言うにははばかれるような、えっぐい情報…。

何か、知ってるんじゃない？

例えば…。」

ヨ「私たちが…。夜な夜な…。

ボウヤのような小さな男の子を宿に連れ込んで…。」

レ「おチンポ逆レイプ…♡」

ヨ「おチンポ逆レイプ…♡」

レ「してるんじゃないかって噂とか…♡

ふふふ…♡」

ヨ「だとしたらその噂は本当だよ…♡

でなきゃ、ボウヤのような男の子に、

声なんてかけるものか…♡

冒険の足手まといにしなければならないだろうに…♡」

レ「だけど、性欲発散のためになら、話は別…♡

特にボク、最近見た中じゃあいっちゃんかわいいから…♡

もう、今すぐ犯してあげたくって、たまんない…♡」

ヨ「さあ、そういうわけだから…♡

あとはもう、余計な話はいらさないな…♡

今からキミのこと、

キンタマ空っぽになるまで犯してやるぞ…♡

なあに、安心しろ…♡

痛いことはしないさ…♡」

レ「キミはただ、おチンポいっぱい、

気持ちよくなってくれればいいだけだから…♡

大人しく、おチンポ出して…♡

ザーメンびゅーびゅー、お漏らししてなさい…♡」

ヨ「さあ、行くぞ…♡

若いおチンポの味…♡

確かめさせてもらうからな…♡

ふふふふふ…♡」

● 第2章

レ「はーあ…♡」

ヨ「はーあ…♡」

レ「っはあ…♡」

ふふ、ボウヤ…♡

キスするのは初めてかな？」

ヨ「初めてのキスが、こんな強烈、

舌入れダブルべろちゅーなんて…♡

もう二度と、普通のキスじゃあ満足できないな…♡」

レ「まあ、今日覚えさせられちゃうのは、これだけじゃあないけど…♡」

ヨ「例えば、この…♡

すでに膨らみかけているおチンポの…♡

正しい使い方…♡ とかね…♡」

レ「まずはこれ、いっぱい気持ちよくしてあげるよ…♡

青臭いおチンポ汁…♡

びゅるびゅるたっぷり、吐き出させてあげる…♡」

ヨ「くっさいオス汁…♡

遠慮なく、どばどば出しちゃっていいからな…♡

ほら、行くぞ…♡」

レ「おチンポしゅっしゅ…♡」

ヨ「おチンポしゅっしゅ…♡」

レ「おチンポしごかれるの、気持ちいいでしょ？

女の手でチンポ握られて、ごしごししゅっしゅ…♡

おチンポびんびんになってくるう…♡」

ヨ「いっぱいおチンポ勃起させていいんだぞ…♡

余計なことなんて考えず、射精のことだけ考えて…♡

おチンポたっぷり感じような…♡」

レ「ふふ…♡」

もう腰がへこへこ浮いてきてる…♡

べろちゅー手コキ、刺激が強すぎたかな…♡」

ヨ「まだほとんど使ったこともないおチンポに、

年上お姉さんの甘々べろちゅーチンしこは強すぎたか…♡

まあいい♡ 構わんぞ♡

おチンポ即イキ♡ ザー汁お漏らし…♡

してしまえ…♡」

レ「お姉さんたちにお口の中、ねっちょり犯されながら…♡

一生忘れられない射精の快感♡

脳に刻み込んで…♡」

ヨ「しっばいべろ、吸ってやるから…♡

会わせておチンポもお漏らしするんだぞ…♡

キンタマからどびゅどびゅうって…♡

熱いの出すんだぞ…♡」

レ「ほら出せ、出せ、ザーメン出せ出せ…♡」

ヨ「さあイケ、イケイケ♡ チンポイケ…♡」

レ「びゅーびゅーびゅー…♡ ぶびゅるるっ…♡」

ヨ「びゅるるっ…♡ ぶっぴゅう♡ どっぴゅう…♡」

レ「ああ…♡ すごい量、出てきてる…♡

若いチンポの勢い、ヤバすぎる…♡」

ヨ「宿代代わりに、そこらのおっさん連中とした時とは、

比べものにならないな…♡

ああ、これだから若い男を食うのはやめられない…♡」

レ「おチンポ搾られた感想はどう？

自分でするのより、何倍も気持ちいいでしょ？

それ…もっともっと、味わわせてあげるから…♡」

ヨ「まだまだ終わらないぞ…♡

今夜は朝まで…♡ チンポ、搾りまくってやるからな…♡」

レ「ほら、次はここだよ…♡」

ヨ「ボウヤの耳…♡

恥ずかしがって真っ赤になってるこの耳を…♡」

レ「ふううう…♡」

ヨ「ふううう…♡」

レ「たっぷり舐めながら…♡

おチンポまた、しこってあげるよ…♡」

ヨ「発目ザーメン…♡

またどっぷり出そうなあ…♡」

レ「だめ？ 何がダメなの？

おチンポ気持ちいいんでしょう？

ふふ…♡」

ヨ「おチンポ気持ちよすぎてダメ？

イッたばかりのおチンポしごかれるのが、

そんなにいいのか♡

ふふふ…♡」

レ「なら、もっとしてあげないとだね…♡

ボクのこと、今夜はいっぱい気持ちよくしてあげるんだから…♡」

ヨ「気持ちいいのにダメなことなんてないさ…♡

大丈夫♡ 怖くない♡ 怖いのないない♡

おチンポ気持ちいいだけ…♡」

レ「キンタマびくびく震えてる…♡

おチンポもキンタマも元気だねえ…♡」

ヨ「青臭い新鮮ザーメン♡

元気よく作られているんだろぅなあ…♡

ほら、ここ…♡

優しく揉み込んでやるよ…♡

そら、そら…♡」

レ「キンタマ揉み揉み…♡

コリコリキンタマ、もみほぐし…♡

ぞくぞくするの止まらない…♡

ザーメンいっぱい熱くなる…♡ 濃厚になる…♡」

ヨ「ダブル耳舐めキンタマ揉み揉み手コキ…♡

おチンポ幸せすぎて、訳がわからなくなってくるなあ…♡」

レ「我慢汁がだらっだら…♡

さっきのお漏らしザーメンと混じって、

おチンポべっとべと…♡」

ヨ「また腰へこ持ち上がって、おチンポ、

イキたそうにお口ばくばく…♡

ザーメン飛び出してきそうだぞ…♡」

レ「イキたいんだ？ 出ちゃうんだ？

おチンポ搾られて、またあっさり射精しちゃうんだ♡

もったいない…♡」

ヨ「まあいいさ♡

今夜はかなり長くなる…♡

あっさりお漏らしも悪くはない…♡

そら、イケ…♡

またおチンポ、どっぷり出せ…♡」

レ「イケ…♡ イケ…♡

お姉さんたちにお耳、左右から食べられて…♡

チンポ汁、漏らせ…♡」

ヨ「年下チンポ爆発しろ…♡

キンタマから熱いの、どぶどぶ噴き出せ…♡

チンポイケ、チンポイケ…♡」

レ「チンポイケ、チンポイケ♡

どっぴゅん漏らせ…♡」

ヨ「出せ出せ、出せ出せ…♡

お漏らしびゅるるう…♡」

レ「ぴゅっぴゅっぴゅっぴゅっ…♡

おチンポどっぴゅうう…♡」

ヨ「びゅくっ、びゅくっ、どっぴゅべゅう…♡

射精気持ちいいなあ…♡」

レ「っはぁ…♡

ふふふ…♡

いい顔になってるね…♡

おチンポ気持ちよすぎて、もうすっかり、

とろけきってる…♡」

ヨ「まだまだ気持ちいいことは続くのにな…♡

途中で壊れないように、気をつけるんだぞ♡」

レ「次はどういう風にお漏らしさせられちゃうのか…♡

楽しみだねえ…♡

ふふふふふ…♡」

● 第3章

レ「そろ…♡

次はこのおっぱいで、ボクのおちんちん、きもちよくしてやるぞ…♡」

ヨ「お姉さんたちのおっぱい、とっても大きいだろう？

さっき話しかけた時、ボウヤも真っ先に目を奪われていたからな…♡

ああいうの、よくないんだぞ…♡」

レ「そんないけない男の子には…♡

おっぱいの洗礼…♡ してあげないと…♡

ほうら…♡ イキたて敏感おチンポに…♡

おっぱい、むにゅん…♡」

ヨ「ダブル」カップパイズリで…♡

敏感おチンポ、搾ってやろう…♡

ほうら…♡ おっぱい、上下に…♡」

レ「四つのおっぱい擦り合わせて…♡

おチンポごしごし…♡」

ヨ「ザーメン残り汁がローションになって、

ぐちゅぐちゅ♡ ぬちゅぬちゅ♡

おチンポやわらかおっぱいに包まれて、

気持ちいいなあ…♡」

レ「あたしたちのおっぱいが動く度に、

ボクの口から、あん、あんって♡

かわいい声が漏れてるぞ♡」

ヨ「そんな声が出るぐらい気持ちいいのか？

喘ぎ声、我慢できないのか？

それとも…もう我慢するの、やめちゃったということかな？」

レ「さっきまでも気持ちよさそうだったけど、

そんな声、出してなかったからなあ…♡

二回もおチンポ搾られて、

お姉さんたちにザーメン搾られる快感に、

目覚めちゃったんだな…♡」

ヨ「もっとおチンポしてほしい…♡」

もっとお射精びゅっぴゅさせてほしい…♡

ボクのおチンポもっといじめてくださあいって…♡

理性より、男の子の本能…♡ 欲望の方が勝っちゃったんだな…♡」

レ「我慢なんて、初めからムダなのに…♡

ようやく気付いたみたいだね…♡」

ヨ「なら、一つ成長した坊やに、プレゼント…♡

このおっぱいの中でガッチガチになってるおチンポ…♡

もっと気持ちよくしてやろう…♡」

レ「どこで気持ちよくしてもらえるかわかるかな…♡」

ヨ「答えは、これだ…♡

んうあゝ…っ♡」

ヨ「おチンポおしゃぶり…♡

ザーメン啜り取り、パイズリフェラだぞ…♡」

レ「おチンポじゅるじゅる、

お姉さんたちに吸われて…♡

キンタマから精子、啜り取られちゃおうねえ…♡」

ヨ「ふふふ…♡

かわいい喘ぎ声、大きくなってきたなあ…♡」

レ「おチンポちゅうちゅうするのに合わせて、

また何度も腰へこしちゃって…♡

へこ癖ついちゃったみたいだね♡ ふふ…♡」

ヨ「たっぷりへこへこ、おチンポ突き上げていいぞ♡

お姉さんたちのパイズリ穴で、へこへこ腰振り練習、しちやおうなあ…

♡」

レ「んう？ 出ちゃう？

あは♡ バキューム強力すぎて、

キンタマから精子、昇ってきたみたいだね…♡」

ヨ「なあんだ…♡

せっかくパイズリ交尾、味わわせてやろうと思ったのに…♡

まあいい♡ ほら、出せ出せ♡

我慢なんかさせないからな♡

たっぷり吸ってやるから、またおチンポ、びゆるびゆる出せ…♡」

レ「お姉さんたちのお口の中に…♡

とろとろお汁、いっぱい出しちゃおうな…♡」

ヨ「おっぱいに包まれたまま、どくどくどっぴゅん…♡

お口の中に、真っ白おしっこ受け止めてもらおうなあ…♡」

レ「出せ、出せ、出せ♡ おチンポイケ…♡」

ヨ「精液出せ♡ ザーメン吐き出せ♡

イケイケ、イッケえ…♡」

レ「んうあ…♡ んあんっ、はっああん…っ♡

んっ、んうんっ、んっううん…♡」

ヨ「んっうん…♡ んっ、っっ、んっうん…♡

んっう、んっうん、ふううう…♡」

レ「んっん…♡ んん♡ んんぢぢぢっ♡ んんぢぢ♡ んんぢぢぢ…♡」

ヨ「んっううん…♡ んっうん、んっふっ、んっん♡ んんぢぢ…♡」

レ「っはぁ…♡」

ああ、精子、まだこんなに濃い…♡

若いキンタマ、ザーメン無限製造してるのか…♡」

ヨ「いいや、それだけじゃあない…♡

どうやらボウヤは…♡

かなりの逸材みたいだな…♡」

レ「ふふ、なるほど…♡

なら、それ…♡ 確かめてみようか…♡

ほうら、ボク…♡ 今度はボクの方が、

私たちを気持ちよくする番だぞ…♡」

ヨ「私たちの大きなおっぱい、その手で掴んで…♡

先っぽ乳首…♡ ちゅうちゅう吸うんだ♡

赤ちゃんみたいにな…♡」

レ「さっきはもう子供じゃないなんて言ったけど…♡

結局、おっぱいには興味津々なんですよ？

なら、吸わせてあげる…♡」

ヨ「恥ずかしがらなくてもいい…♡

男というものは、どうしようもなくおっぱいが好きなんだ…♡

大きいおっぱいに逆らえない男なんて、

ほとんどいないんだからな…♡」

レ「だから、おっぱい吸って…♡

赤ちゃんみたいに、おっぱい飲んで…♡」

ヨ「そうしたらまた…♡

お姉さんたちがおチンポ、気持ちよくしてあげるからなあ…♡」

レ「んうっあ…♡

ふふ、来た来た…♡

おっぱいちゅうちゅう…♡

美味しいでちゅかあ…♡

赤ちゃん冒険者くん…♡

よしよし…♡」

ヨ「よくできまいたねえ…♡

はあい、それなら約束通り…♡

赤ちゃんおチンポ、しこしこしてあげまちゅよお…♡」

レ「しこしこしゅっしゅ♡

おチンポしゅっしゅ…♡

おっぱいに夢中な赤ちゃんおチンポ♡

「っっっおし…♡」

ヨ「おチンポあつという間に大きくなりまちたねえ…♡

そんなにおっぱいおいちいでちゅかぁ…♡

それとも、やっぱり…♡

んうぁ…っ♡

ふふ、今度は私のおっぱいか…♡

うんうん♡ いいでちゅよお…♡

たっぷりどうぞお…♡」

レ「優秀おチンポ、いっぱいごしごししまちゅからねえ…♡

ほうら♡ ほうら♡ しこしこしゅっしゅ…♡

おチンポしこしこ…♡

キンタマもついでに、優しく撫で撫で…♡

気持ちいいでちゅねえ…♡」

ヨ「どんどん精子作られて、キンタマあつつあつ…♡

いくら出しても出し足りない…♡

何度もぴゅっぴゅできちやいまちゅねえ…♡」

レ「ほうら、いいんでちゅよお…♡

またいつでも出してくれちゃってえ…♡

熱々ザーメン、びゆるびゆるどっぴゅう…♡

おっぱい吸いながら、おチンポどくどく…♡

しまちようねえ…♡」

ヨ「さあ…♡ 今度は2人分のおっぱい…♡

いっしょにちゅぱちゅぱしまちようねえ…♡

ポウヤの顔より大きいおっぱい、

必死に掴んで…♡

ちゅうちゅうちゆるちゆる…♡

乳首舐め舐めしまちようねえ…♡」

レ「んっふうん…♡」

ヨ「んうああ…♡」

レ「はあい、おっぱいちゅうちゅう♡

上手♡ 上手♡

おっぱいたっぷり飲みながら、

おチンポしこしこ…♡

カウパーダダ漏れ♡ 気持ちよさそう…♡」

ヨ「イッちやいまちゅねえ…♡

真っ白ザーメンまたいっぱい、

どくどくびゅうびゅうしちやいそいでちゅねえ…♡

いいでちゅよお♡ どうぞ、どうぞお…♡

おっぱいごくごく飲みながら♡

ザーメンお漏らししまちようねえ…♡」

レ「おチンポどうぞ♡ おチンポどうぞお…♡

いっぱいびゅーびゅーしまちようねえ…♡

はい、はい、はあい…♡」

ヨ「おチンポどうぞ♡ おチンポどうぞお…♡

いっぱいびゅっぴゅしまちようねえ…♡

はい、はい、はあい…♡」

レ「びゅるるるう…♡ じゅんべっくう…♡

ザーメンびゅっぷうん…♡」

ヨ「びゅっぷう♡ びゅっぷう♡ びゅるる、びゅるるう…♡

チンポ汁、たあっぷり…♡」

レ「ふふ…♡ 思った通り…♡

まだこんなに濃いのが出るんだ…♡」

ヨ「やっぱりボウヤのおチンポは…♡

私たちもだあい好きな…♡

絶倫チンポ…♡」

レ「何度出しても全然萎えない…♡

最高にかっこいいおチンポ…♡

見つけた…♡」

ヨ「それならまだまだ楽しませてもらわないとね…♡

空っぽにならないキンタマから…♡

延々ザー汁、搾ってあげる…♡

ふふふふふ…♡」

● 第4章

レ「本当におチンポ、勃起したまま…っ♡

嬉しくなるねえ…っ♡ ふふ…っ♡」

ヨ「ボウヤほどの年齢でこの体力…っ♡

今捕まえておかないと、将来、どんなヤリチン男になるか…♡」

レ「今のうちにしっかりおチンポ教育して…♡

私たち以外の女に手を出さないように躑けておかないとね…♡」

ヨ「では、未来の悪いおチンポ…♡

また、この口で搾ってやろう…♡」

レ「喉奥ぐっぽり強烈フェラ…♡

交互に行くぞ…♡」

ヨ「お姉さんたちのお口まんこ…♡

おチンポでハメ比べさせてやろう…♡」

レ「始めるぞ…♡

んうあ…っ♡

っはあ…♡」

ヨ「さあ、次は私だ…♡

っはあ…♡

どうだ？ おチンポ、口の奥…っ♡

喉奥で締め付けられながらのフェラチオは…♡」

レ「強烈ディープスロットで、また…♡

チンポバキュームしてやるよ…っ♡

っはあ…♡」

ヨ「キンタママッサージも続けるぞ…♡

おチンポ吸われながら、タマタマ揉みほぐされて…♡

精子たっぷり溜め込むんだぞお…♡

っふう…♡」

レ「ふふ…♡

またおチンポもキンタマもビクついて…♡

ボクみたいな男の子相手は、わかりやすく助かるな…♡」

ヨ「見ていて実に楽しいぞ…♡

我慢できずにお漏らしする時の、

辛そうで、恥ずかしそうな表情も…♡

たまらなあい…♡」

レ「ほら、またあたしの番…♡

んっう…っ!?

んっは…っ♡

おいおい、ボクう…?

おチンポ喉奥に突っ込まれてる時に腰へこは、

ひどいんじゃないか…?

お姉さんの喉まんこ、勝手に犯すなんてなあ…♡」

ヨ「ふふふ…♡

自分で腰へこコントロールできないのか?

それはそれで、面白そうだ…♡

んっぷ…っ。

っはあ、っはあ…♡

あはあ…♡

確かに、これはいい…♡」

レ「本当に、悪いおチンポだ…♡

その年でこんなもの、覚えるとは…♡

っはぁ、っはぁ、ぁぁ…っ♡

喉奥、たまらん…♡」

ヨ「っふう、っふう、ふううう…♡

喉奥おチンポレイプ…♡

気持ちいいぞお…♡」

レ「ふふ…っ♡

もう出るのか？ いいぞ…っ。

喉奥にどっぷり射精しろ…♡」

ヨ「どっちに出したい？

好きな方に出していいぞ…♡

またたっぷり、飲んでやるからなあ…♡」

ヨ「そら、出せ…♡ 出せ出せ…♡

おチンポ射精しろ…♡」

レ「喉奥レイプフェラ、おチンポ、イッてしまえ…♡」

ヨ「んおっぶっ…♡ んっううん…♡」

レ「おい待て♡ 全部飲む♡

んっちにも…♡」

ヨ「んっう…♡

ぶあ…♡」

レ「んあむ♡ んっううう…♡ んっ、んっうう…♡

んっう、んっう、ふーう…♡

んっふう…♡

ふう、ふううう…♡」

レ「んっぶ…♡ んっあ、んっあ、んっあ…♡」

ヨ「んっあ…♡ んっ、んっ、んっ…♡」

ヨ「っふうう…♡

ああ…♡ いい味だあ…♡

たっぷりの精液…♡ 濃度も上々…♡

新鮮で青臭いおチンポザーメン…♡

たまらない…♡」

レ「チンポもまだまだ元気そうで…♡

とはいえ、さすがに多少は萎えてきたか…？」

ヨ「なら、またキンタマが元気になるよう…♡

おまじないしてやらないとなあ…♡」

レ「ああ…♡

チンポが元気になる、特別なおまじないだ…♡

魔法じゃあないが…♡ 抜群に聞くぞ…♡」

ヨ「そろ…♡ ここだ…♡

この、ボウヤのお尻の穴あ…♡

んうあ…♡♡」

レ「…♡ いっぱいぺろぺろ舐めてやるんだよ…♡」

ヨ「これはおチンポにたっぷり効くだろう？

ほうら、あつという間にまた、フル勃起イ…♡」

レ「ケツ穴ねっとり舐められて、おチンポたくさん、

感じるんだぞ…♡」

ヨ「お尻の穴には、おチンポが元気なるスイッチがあるからな…♡

そこをこの舌で、ぐりぐり押してやれば…♡」

レ「どんどんチンポ勃起して…♡

キンタマぐつぐつ、ザーメン煮え滾ってきてえ…♡」

ヨ「またたつぷりと、射精したくなってくるということだ…♡

尻穴たっぷりほぐしながら、舐めてやるからなあ…♡」

レ「ほら…♡ 舌先とんがらせてえ…♡

ケツ穴の中までベロ、入れてえ…♡」

ヨ「前立腺、ぐりぐりぎゅうぎゅう…♡

キンタマ強制ザーメン作り…♡

無理矢理元氣にしてやるぞお…♡」

レ「カウパーもまたダダ漏れだぞ…♡

尻穴、舌先で押す度に、どくん、どくんと…♡」

ヨ「またかわいい声もたっぷり漏らして…♡

尻穴舐めてもらうのがそんなにいいんだな…♡

やはりボウやは、いい素質を持っているようだ…♡」

レ「あんまりいい声で鳴くなよ…♡♡

もっと尻穴、甘やかしてやりたくなる…♡」

ヨ「これ以上お尻気持ちよくなったら…♡

戻れなくなるかもしれないからなあ…♡」

レ「ふふ…♡ 出てしまいそうか？

ああ、いいぞ…♡ またたつぷりと出せ…♡

前立腺を舌でぼじくらえて、元気になったキンタマから…♡

熱々ザー汁、どっぷり吐き出せ…♡」

ヨ「おチンポからびゅーびゅーびゅーと…♡

くっさいお汁、たくさん出すんだぞお…♡

おチンポ、先っぽから根元まで…♡

我慢汁塗りたくりながらごしごしごいてやるからな…♡」

レ「さあイケ…♡

出せ出せ…♡ いっぱい出すんだ…♡

あつついチンポ汁、びゅうびゅう吐き出せえ…♡」

ヨ「イケ♡ イケ♡ 出せ♡ 出せ♡

お姉さんたちにケツ穴にゆるにゆる犯されながら…♡

チンポイケ…♡」

レ「びゅびゅびゅびゅびゅびゅ…♡ ぶっぴゅ…♡」

ヨ「びゅるるう…♡ ぶびゅるるう…♡」

レ「っはぁ…♡

いっぱい出たなぁ…♡

しかも、出した分以上におチンポもキンタマも回復して…♡

まだまだおチンポできそうだ…♡」

ヨ「ふふ…♡

そろそろ、ボウヤばかりを

気持ちよくしてやるのにも飽きてきた…♡

次は私たちにも、してもらおうか…♡」

レ「さっきのおっぱいちゅうちゅうとは、

比べものにならないぐらい…♡

気持ちいいことだぞ…♡」

ヨ「期待でおチンポ、もっと膨らませていいぞ…♡

それ以上のもの…♡

与えてやるからな…♡

ふふふふふ…♡「♡」

● 第5章

レ「さあ…♡ ようやくこの時が来たな…♡

ボクのおチンポが、また一つ…♡

大人の階段をのぼる瞬間だぞ…♡」

ヨ「そら…♡ そこからしっかり見ているんだぞ…♡

ボウヤのおチンポが、今から、あったかあいおまんこに、

飲み込まれていくぞお…♡」

レ「セックスだ…♡ わかるよな、そのぐらい…♡

気持ちいいおまんこ穴に…♡

敏感おチンポが入っていく…♡

あったかいまんひだでたっぷりおチンポしごかれて…♡

またびゅーびゅー、熱いザーメン、出させてやる…っ♡

そうら…♡

ああ…♡ 熱い…♡

若いおチンポのこの硬さあ…♡

何度味わってもお…♡

んっうん…♡ んっ、あっ、あっああ…♡

入ってくう…♡

ずぶずぶ、おチンポ…♡♡ あたしの中にい…♡

あっ、うっ、あっ、あっああ…♡♡

うっうううん…♡♡

はっ、ふっ、ふっくう、ううああ…♡♡

あああ…♡

入ったぞ…♡ ボクのおチンポ…♡

ぜえんぶ、なあ…♡」

ヨ「ふふふ…♡ まだ入れたただけだというのに、

もうすっかり、顔がとろけきって…♡

そんなことで大丈夫か？

まだおまんこピストンも始まっていないのに…♡

お姉さんたちに、たっぷりおチンポしぼられる本番は…♡

まだこれからなんだぞ…♡

それに…♡

私だって、気持ちよくしてもらいたいしなあ…♡

ほうら…♡ ボウヤの顔に、デカ尻…♡

乗っけるぞ…♡

おまんこプレスで顔面騎乗…♡

私のおまんこ、好きなだけ舐めていいからなあ…♡

んっうん…♡

っはあ…っ♡ ああ、ボウヤの顔…♡

いい座り心地だあ…♡」

レ「んっうん…♡

ボクのおチンポ、中で膨らんだぞ…♡

顔面デカ尻プレスで興奮したのか？

その年で、いい性癖を持っているなあ…♡

ふふ…♡ いいぞ…♡ 興奮してきた…♡

なら、おまんこ交尾…♡

始めるぞ…っ♡

おチンポたっぷり気持ちよくして…っ♡

青臭ザーメン、どっぷり出すんだぞお…っ♡

そうら…っ♡

んっ、あっ、はっあっ、ああああ…っ♡

いいっ、いいぞっ♡

おチンポっ♡ いい…っ♡

若い弾力…っ♡ おまんこでっ、包み込んでえ…♡

んんっ…んあ、あん、んっ、あ、ああ、ううっ♡

うん、あん、あんっ、あ、あっ、うん、んっ、んっく、んっふ…♡

はっああああ…っ♡」

ヨ「んうあ…っ♡

ふふ…っ♡ おチンポ犯されて、

あっという間にボウヤまで、喘ぎだしたなあ…♡

いっしょに出てくる吐息で…♡ んっふう…っ♡

おまんこ、くすぐったいぞお…♡

んっ、ふっ、んっくう、はっあん…♡

だが、まだ物足りないなあ…♡

おチンポ気持ちよすぎて無理かも知れないが…っ♡

ちゃんと私のおまんこ、舐めるんだぞ…っ♡

ほら、ほうら…っ♡

お尻と太ももで、顔をむぎゅっと締め付けてやるぞお…っ♡

気持ちいいだろう…っ♡

なら、しっかりお返しを…♡ んっはあ…♡

ああ、そうだっ♡ あっ、んっあっ♡

気持ちいいぞお…♡ ふふふ…っ♡」

レ」あはぁっ…ああんっ、あんっ、いや、やん♡

んあう、あう、あん、あんっ、んあっ、んあうっ…っ♡

んっくうっううう…っ♡

いいっ♡ いいぞっ♡ おチンポっ♡

膨らんで…っ♡ ううううう…っ♡

んっ、ふっ、んっくうっ、はっあああ…っ♡

んあっ、あん、んくっ、んうっ…っ♡

んあ、ああん、あっ、あんっ、んう、んあ、んあっ♡

気分がっ、高まってきた…♡

ボクのおチンポっ、なかなかいいぞ…っ♡

あたし好みのっ、年下ガキチンポお…っ♡

あっ、あっ、あっ、あっ…♡

んっ、あん、んあ、あっく、んっく、いや♡

ううあああ…っ♡

おまんこ本気になってきた…っ♡

もっと強烈にい…♡ 搾り上げたくなってきたぞお…っ♡

っはあ、っはああ…♡

デカケツに包まれながらも、

おチンポしっかり、感じるんだぞ…♡

本気おまんこピストン…っ♡

してやるからなあ…♡

あああ…っ♡

はっ、はっ、はっ、はっあああ…っ♡

いあ、ん、んうっ、んあ、んあう…♡

んっ、ああ、ああんっ、あんっ、いや、やん♡

んあう、あう、あん、あんっ、んあっ、んあうっ…♡

うっく、うぐ、うあ、うあん、あん、はあっ、あはっ、あはあっ…♡

んううあっああ…♡

ほらっ、ほらっ、どうだっ♡

くうううう…♡ 杭打ちスパイダー騎乗位でえ…♡

ガキチンポ搾りい…♡

っぁぁぁ…♡

あっ、あぁっ、あっ、はぁっ、あんっ、あん、あんっ、やんっ、ふぁっ

♡

あっ、あつい、んあ、あぁん、あっ、あんっ♡」

ヨ」はは…♡ 情けない声、いっぱい出てきたぞ…♡

おチンポしぼられて、気持ちよすぎて…♡

頭の中ぐっちゃぐちゃなんだろう…？

おまんこぺろぺろ、愛液の味でお口いっぱいになりながら…♡

おチンポずぼずぼお…♡

ふふふ…♡ おチンポ熱すぎてとろけちゃう…♡

チンポなくなる♡ おチンポ消える♡

おまんこの中でしごかれすぎて、燃え尽きちゃいそう♡

ふふふふふ…♡」

ヨ「いいぞ♡ 出せ、出せ♡

おまんこ愛液で顔中べとべとにされながら…♡

あったかデカケツに包まれながら…♡

どびゅどびゅお漏らし中出し射精…♡

その年で、お姉さんたち相手に孕ませ種付け覚えてしまえ…♡

年上孕ませ射精の味を覚えて…♡

まだまだ私たちと、延々セックス、し続けようなあ…♡

ほら、ほら…っ♡ いっぱいチンポ汁出せるように…♡

さらにデカ尻押し付けてえ…♡

んっうう…♡ ははっ♡

おチンポイキかけなのに、まだおまんこ汁、すすってくれるのか…♡

いいこじゃないかあ…♡

よしよし、よしよし…♡ はっああ…♡」

レ「っああ、んあう、んっく、くあ…っ♡

はあっ、んんあ、つくあ…っ♡

んうっああん、うん、あんっ、あっ、んあ、ああ…っ♡

くううううあああ…♡

あぁっ♡ イクっ♡ まんこイクっ♡

ガキチンポ逆レイプでっ、まんこイクう…♡

出せっ♡ 出せっ♡ ザーメン出せえ…♡

うっぁぁぁ…っ♡

騎乗位逆レイプ気持ちいい…っ♡

年下チンポ犯しまくって、精液搾り出すの最高だぁ…っ♡

ひい、ぁはぁ、ううぁっ…♡

ぁぁ、ん、んふ、んぁ、んう、ぁ、っぁぁ…♡

っぁぁぁっ、イクイクイクイクっ♡

イククっ♡ イククっ♡ くううっ、はっぁぁぁ…っ♡

うっ、ぁっ、んうぁぁっ、ううぁぁぁ…っ♡

イッグううううう…♡

うううぁぁっぁぁぁ…っ♡

んううぁぁっ♡ はっぁぁっぁぁ…っ♡

ふっ、くっ、んううぁっ、うぁぁぁぁ…っ♡

中につ、熱いのっ、いっぱい出てるぞ…♡

ううっ、おっ、ぁぁぁぁ…っ♡

すごい勢いだ…♡ ガキチンポの癖に…っ♡

奥まで精子、届いてる…♡ くうう…♡」

ヨ「はぁ、はぁ…♡

はは…♡

初めてのセックスでレイをイカせるとは…♡

ボウヤほどの年齢でこれは、すごいことだぞ…♡

優秀チンポなのはわかっていたが…♡

これは期待できそうだ…♡」

レ「んっふう…♡ はぁ、ふう…♡

ああ、期待していいぞ、ヨル…♡

あたしたちは最高のチンポ…♡ 見つけたようだ…♡」

ヨ「ふふ…♡

では…♡

私も楽しませてもらおうか…♡

なぁに、安心しろ…♡

怖いレイと違って…♡ ほうら…♡

私はこうして、ボウヤのことを優しく抱きしめながら…♡

おまんこしてやるからな…♡

対面座位と言っんだ…♡

これなら、抱き合いながら…♡

お顔をおっぱいに埋めながら…♡

おチンポぱんぱん、できるからなあ…♡

んっあ…♡

ああ、熱い…♡

レイに中出ししたばかりなのに、これとは…♡

なるほど確かに…♡

最高みたいだ…な…っ♡

っあああ…っ♡

チンポ、にゆるって…♡

入ってきたぞ…♡

ふっう、ふう…♡

気持ちいいか？ ん？

お姉さんの優しいおまんこ、とってもいいだろう…♡

レイにキツくしぼられた分…♡

たっぷり癒してやるからなあ…♡

ほうら…♡ 優しく、たんたん…♡

おまんこ動かしやるぞ…♡

にゆる、にゆる、たん、たん…♡

気持ちいいなあ…♡」

レ「黙っていれば、勝手なことを言う…♡

いいか、ボク？ 騙されるなよ？

レイは優しいお姉さんなどでは、決していないからな…♡

あたしと同じ…♡ いや、それ以上にいやらしい…♡

ガキチンポ大好きな、怖いメスなんだぞ…♡

今みたいに、優しいふりしてチンポ責めて…♡

虜にするのが得意技なんだ…♡

しっかり意識を強く持つんだぞ…♡

怖いお姉さんに取り込まれないよう…♡

っはあ…♡

耳舐めしていてやるからなあ…♡」

ヨ「まったく、勝手なことを言うのはどっちなんだか…♡

本当はそんなことないからな…♡

私は本当に優しいんだ…♡

ボウヤみたいな男の子がだあい好き…♡

ボウヤのかわいいおチンポも大好き…♡

かわいいおチンポが勃起して、かっこよくなるのも好きだ…♡

だからボウヤも…♡

お姉さんのために、必死に勃起させてくれ…♡

ほら、おっぱいぎゅうぎゅう♡

お願いっばい埋めていいぞ…♡

えっちなおっぱいの谷間の匂い、たっぷり吸って…♡

キンタマあつつあつにしちやおうなあ…♡

よしよし、よしよし…♡

いいこ、いいこお…♡」

レ「クソデカおっぱいに騙されるなよ、ボク…♡

ヨルはいつもこうやって、少年チンポ、食い荒らしてきたんだ…♡

ひどい時には、ボクぐらいの年の男を、五人ぐらいつれてきて…♡

朝まで全員ぶっ倒れるまで犯しまくって…♡

全身真っ白ザーメンに包まれながら、笑顔であたしに、

おはようなんて言ってきたんだぞ…♡

怖い本性、ちゃあんと見抜くんだぞ…♡

それも冒険者には大事な技術だからな…♡

魔物が化けた宝箱…♡

ミミックを見抜くように…♡

怖いお姉さんのこと、ちゃあんと見抜いて、

負けないようにするんだぞ…♡」

ヨ「ふふふ…♡

それを言うなら、ウソつきを見抜く技術も必要だぞ…♡

ウソをついているのがどちらか、ボウヤならわかるだろう…？

あんなこと言って、レイは結局、

またボウヤのキンタマザーメン搾るただけなんだ…♡

ボウヤを怖がらせて、私に近付けないようにして…♡

一人でボウヤの勃起チンポ…♡

さっきみたいに搾り取るつもりなんだ…♡

ああ、怖い怖い♡ 大丈夫♡

お姉さんが守ってやるぞ…♡

ほうら…♡

おまんこきゅうきゅう、おチンポゆゝつくり締め付けるからなあ…♡

気持ちいいなあ♡ よしよし、よしよし♡

いいこ、いいこお…♡

んうん♡ あっ、はぁ…♡

お姉さんのこと気持ちよくしてくれる、いいおチンポお…♡

そろそろイキそうなんだろう？

優しくおまんこ包まれて、おっぱいの中の空気、

たっぷり吸って…♡

キンタマお漏らししちゃいそう…♡

優しいおまんこに、あったかお漏らし出ちゃいそう…♡

いいぞ、いいぞ…♡

受け止めてやる…♡ たっぷり出すんだ…♡

ほうら♡ おまんこぎゅうぎゅう…♡「♡」

レ「あーあ…♡

人がせっかく忠告してやったのに…♡

負けるんだなあ…♡

ウソつきお姉さんのおまんこに、チンポ食べられる…♡

優しいフリしたにゆるにゆるおまんこに、

ザーメン種付けしちゃう…♡

もう逃げられない…♡ 最後まで食べられちゃう…♡

優秀絶倫ガキチンポ…♡

飽きるまで搾り尽くされる…♡

まあ…♡ ボウヤがそれでいいのなら、いいぞ…♡

ほら、出せ…♡ 出してしまえ…♡

ウソつきおまんこに敗北中出し…♡

お漏らしどっぴゅん…♡

イケ、イケ、イケ…♡」

ヨ「はあい、はあい…♡

出して、出して、出してえ…♡

ゆっくりばこばこおまんこにい…♡

濃厚おチンポミルク、どびゅどびゅ出そうなあ…♡

よしよし、よしよし…♡

おチンポびゅーう…♡ おチンポびゅっびゅう…♡

どっくんどうぞ♡ びゅーびゅーどうぞお…♡

お姉さんのために、あったか精子…♡

たくさん出そうねえ…♡

ほうら…♡ おチンポどうぞお…♡

はあい…♡」

ヨ「んうんあ…♡

あああっ、出てる…♡ 熱いの、いっぱい…♡

とぶとぶ出てる…♡

んっ、くっ、はっあんっ、んっあああ…♡

ああ、お姉さんの中…♡

ポウヤの熱々おチンポ汁で、いっぱい…♡

ほら、ほら…♡ もっと出していいんだぞ…♡

また、ゆっくりばこばこ♡ おまんこたんたん♡

続けるからな…♡

ふふふふふ…♡」

レ「…そうまで言われると、いい加減、

こちらムカついてきたな…。

ふん…♡ わかった…♡

お前がそういうことをするんなら、

「こちらにもいい考えがあるぞ…♡」

ヨ「ん…♡ ザーメン出し切ったか？

ああ、お疲れさま…♡

それで…♡ レイが何やら言ってるようだが…♡

ふふ、仕方ない♡

付き合ってやってくれ♡

大丈夫だ♡ 怖あいことをされても…♡

お姉さんがまた優しく…♡

おチンポ包み込んでやるからなあ…♡

ふふふふふ…♡」

● 第6章

レ「いいか？ あたしだって、そこまで怖い女なんかじゃない…♡

それを今から教えてやる…♡

ほうら、見てみる…♡

あたしのおまんこ…♡

ボクがさっき、たっぷりと注いでくれた精液が、

逆流してきている…♡

いやらしいだろう…？ えっちだろう…♡

こんなところに、ボクのおチンポは入っていたんだぞ？

どうだ…♡

今度はボクの方からおチンポ、突っ込んでみるというのは…♡

今度のセックスの主役はそっちだ…♡

正常位セックスで…♡ ボクの方から…♡

あたしのことを気持ちよくしてみてくれ…♡」

ヨ「ほお…♡

そういう手で来たか…♡

ふふ、さあ、やってみろ♡

おチンポで女を気持ちよくしてやれる男…♡

ボウヤもなってみたいだろう？」

レ「ふふ…♡

おチンポ怒らせていいぞ…♡

さっき散々犯してくれたメスを…♡

そのおチンポでお仕置きしてみろ…♡

年上だろうと、メスはメス…♡

おチンポぶちこんで、おまんこレイプしてやれば…♡

言うことを聞くようになってしまうんだ…♡

さあ、来い…♡

ここだぞ…♡ ここのおチンポ、入れるんだ…♡

ガチガチ勃起チンポ近付けて…♡

ああ、そうだ…♡ そこに…♡

んうあ…っ♡

ボクの方から、おチンポをお…♡

んううあああ…っ♡

あっ、ふっ、んっうんっ、はっあああ…♡

ふっ、ふっ、ふっ、ふっう…♡

ああ、おチンポ、来た…♡

いいぞ…♡ いい、おチンポだ…♡

こんなチンポでばこされたら…♡

ボクのこと、好きになってしまっても…♡

んっうん…♡

あっ♡ あっ♡ あんっ♡ あっあんっ♡

はっあああ…♡

んっ、あっ、やっあ、んううん…♡

おチンポ、ぱんぱん…っ♡ おまんこ、犯されているう…♡

ボクのおチンポ、大きくてえ、気持ちいいぞお…♡

ふふふ…っ♡

ヨ「ふふ、いいぞいいぞ♡

初めてにしては上手じゃないか♡

そのままレイのおまんこ、たっぷり犯せ…♡

ボウヤのものになるまで、何度も何度も…♡

突いて、突いて、突きまくれ…♡

おチンポ大きくなれるよう…♡

ここで応援していてやるからな…♡」

レ「あんっ、やっ♡ んうんあんっ♡

はっああ…♡

その調子だ…♡ ほら、ほら…♡

おチンポたんたん…♡

おまんこの奥、子宮目掛けて、ばちゅばちゅ、ばちゅばちゅ…♡

それがセックスだぞ…♡

メスを犯す感覚だ…♡

しっかり覚えるんだぞ…♡

そうすれば、んっうん…♡

いつか本当に、あたしのおまんこ、ボクのものに、

なるかもしれないからなあ…♡

そら、ぱんぱん、ぱんぱん♡

ぬちゅぬちゅぬちゅぬちゅ♡

おチンポ上手だぞお…♡

ああ、おまんこ気持ちいい…♡

いい気分になってきた…♡

あっ、んっ、あっあんっ、はっあああ…♡

んっ、んっ、うんっ、んうああ…♡

ふふふ…♡」

ヨ「そら、もっとぐいって、おチンポ奥まで突き入れるんだ…♡

より深く、より強く…♡

剣と同じだぞ♡ 深く切り込めばそれだけ、

相手にダメージを与えられるんだ…♡

ボウヤのおチンポ、まだまだ奥まで入るだろう？

体重かけて、ぐいって奥まで…♡

さっき、レイにやられたことを思い出せ…♡

杭打ちピストン…♡

見よう見まねでいい…♡

強くおチンポ、突き立ててみろ…♡」

レ「んううあ…っ♡

あっ、んっ、あっ、んうああ…っ♡

おチンポっ、奥…♡ ふふ…っ♡

人の身体の上、勝手に乗っかって…♡ っああ…っ♡

だが、おチンポ奥につ、食い込んでくる…っ♡

いいところ、当たるう…♡

あ、ああっ、ん、んふう、んっ、んあ、あん、んう…っ♡

んあ、うつふ、うん、あは、あんっ、あんっ、あんっ♡

ふふ…♡

よくやったじゃないか…♡

そら、ご褒美くれてやる…♡

顔、こっちに向けろ…♡

んうあ…♡

っはあ…♡

んっう…♡ ふふ、キスハメ…♡

気持ちいいだろう…♡

おチンポびくんって、中で跳ねたぞ…♡

っああ…♡ あたしも、んっく…♡

かなり、いい具合になってきたあ…♡」

ヨ「ピストンする度に揺れるキンタマ…♡

とってもかわいいぞお…♡

ふふふ…♡

びくびく震えて…♡

射精したくなったんだろう…♡

また、レイの中に…♡ 種付け射精…♡

メスまんこにどっぷり中出し…♡

したくなったんだろう…♡

いいぞ…♡ 出してしまえ…♡

おチンポ中出し…♡

あったかまんこに包まれながら、びゅーびゅーお漏らし…♡

にゆるにゆる年上まんこにザーメン出る出る♡

漏れる♡ 漏れちゃう…♡」

レ「んっ、あっ、はあ…♡

出せ、出せ…♡

真っ白おしっこ♡ たっぷりびゅーってしていいぞ…♡

あたしのおまんこ、好きなだけ…♡

ボクの熱々おチンポ汁で汚していいぞ…♡

ほら、ほら♡ 出る出る♡ イクイク♡

おチンポイク♡ おチンポイクう…♡

いっぱいべろちゅーしてやるからな…♡

口の中、とろっとろに舐め回されながら…♡

ぬちゅぬちゅおまんこの一番奥に…♡

ザー汁どぶどぶ♡ 中出ししろ…♡

出せ♡ 出せ♡ 出せ♡ 出せ…♡

イケ、イケ、イケ、イケえ…♡」

レ「んっううん…♡

はは…っ♡ 出てるぞ、精液…♡

たくさん、中に…♡ ああ…♡

すごい量だ…♡ 本当に、たっぷり…♡

んっうん…♡

おまんこ熱い…♡ 子宮、ホントに届いて…♡

はぁ、はぁ…♡

いっぱい出せたな…♡ えらいぞ、ボク…♡

よしよし、よしよし…♡

んうん、はぁ…♡ ふう、はぁ…♡

どうだ？ これであたしもそんなに怖い女じゃないと、

わかってくれたか？」

ヨ「ふふふ…♡

わかってくれたみたいでなによりだ♡

しかし、レイも素直じゃない…♡

自分もボウヤと甘々えっちしたいというのなら、

そのように言えいいものを…♡」

レ「な、なに…？」

違うぞ、ヨル…っ。

あたしは別に、そのようなことは…っ。」

ヨ「ふふ…♡ まあいい…♡

そんなことより、だ…♡

さぁ、ボウヤ…♡

また私とセックスしてもらおうぞ…♡

今度は、私が上になって…♡

ああ、そうだ♡

私がボウヤに跨がって…♡

ガキチンポレイプ…♡ するんだよ…♡

レイがしたのと同じように…♡

おまんこぐっぽりおチンポ啜え込んで…♡

スパイダー騎乗位ピストン…♡

杭打ちハメハメでおチンポ、強制射精させてやる…♡

ボウヤとレイのセックスを見ていたら…♡

我慢できなくなってしまったからなあ…♡

んうあ…っ♡

っはあ…♡ 年下勃起チンポ…っ♡

いただきまあす…♡

んっあああ…っ♡

ん、んあ、あん、ああ、あん、ああ、んっ♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん…っ♡

っああ、いい…っ♡

チンポいいぞお…♡

少年チンポ犯すのっ、たまらないい…っ♡」

レ「あーあ…♡

せっかく優しい女だと信じていたのに…♡

かわいそうだなあ…♡

よしよし♡ 元気出せ…♡

怖くない、怖くない…♡

そうら…♡ 慰めてやろう…♡

泣きそうになってる顔に、このデカ尻を乗せてやる…♡

むちむちデカケツに顔を埋めて…♡

泣き顔、隠すといい…♡

んうんっあ…♡ ああ…♡

なるほど、これは…♡

ボクの顔…♡ いい感触だ…♡

柔らかデカ尻気持ちいいか？

よしよし、よしよし…♡

ほうら、尻肉ぐりぐり押し付けてやる…♡

涙をしっかり拭うといい…♡

ふふふ…♡」

ヨ「ふふ…♡

そう泣きそうにならなくてもいいじゃないか…♡

まあ、もう見えなくなってしまったが…♡

だが、おチンポの方は正直だぞ…♡

こんなに硬く、はぁ…♡

私のおまんこっ、えぐり上げてくるう…♡

っぁぁ…♡ ガキチンポ、がちがちで…♡

気持ちいい…♡

やんっ、ぁぁ、うあんっ♡

あん、うん、あん、あんっ、ん、んぁ、はぁ、あふ、ふあっ…♡

はっぁぁぁ…♡

やはり犯すには、ボウヤぐらいの年齢の男の子に限るなぁ…♡

性欲旺盛で…♡ 頭ではいくら嫌がっていても…♡

おまんこの快感に、逆らえない…♡

んうぁぁ…♡」

レ「聞いたか？　ボク…♡

この女…♡　ボクのこと、

性欲処理のためにしか見てないようだぞ♡

ひどいなあ、まったく…♡

ほらほら、泣くな泣くな♡

尻肉もつと押し付けてやるからな…♡

触ってもいいぞ♡　尻肉揉み揉み♡

揉んでるだけで気持ちいいデカケツ肉♡

たっぷり味わえ…♡

おチンポ犯されていても♡

悪いお姉さんに騙されてたとわかって♡

お尻に甘えて、何もかも、忘れてしまおうな…♡

よしよし、よしよし…♡

ふふふ…♡」

ヨ「はあ、っふう、っはあ、はああ…♡

何が甘えるだ…♡

そうしてボウヤのこと、自分の虜にするつもりのかに…♡

さっきの私とおなじだ…♡

騙されるなよ、ボウヤ…♡

結局私もレイも…♡ どちらも悪い女なんだ…♡

だが、これだけは覚えているといい…♡

例え悪い女だろうと…♡

今だけは…♡ ボウヤのおチンポ気持ちよくしてくれる…♡

オスにとっては都合のいい…♡

おまんこ女だということはな…♡

だから、こうやってえ…♡

ボウヤのチンポ…♡ くうっううん…♡

おまんこぎゅうぎゅう締め付けて…♡

ぐっちゅぐちゅに犯してえ…♡

ザーメン搾り取ってくれるからなあ…♡

ああ、ん、んふ、んあ、んう、あ、っああ…♡

あ、ああっ、ん、んふう、んっ、んあ、あん、んう…♡

あああっ、チンポ、いい…♡

ふふふふふ…♡

レ「んあ…♡

生ぬるい吐息が尻に…♡

どうした、ボク…♡

ヨルの本気騎乗位で、射精が我慢できなくなったのか？

ガキチンポイクか？

くっさいザーメン、またお漏らししちゃうのか？

いいぞ、出せ出せ…♡

悪い女におチンポ犯されて、種汁搾り出せ…♡

優しかろうと、悪かろうと…♡

おチンポ気持ちよくしてくれる、

便利なオナホ女だと割り切れば…♡

これほどいいものはないからなあ…♡

ふふふ…♡

さあ、イケ♡ 出せ♡ 出せ♡

中出ししろ…♡

種付けびゅーびゅー…♡

どっぷり出せ出せえ…♡

顔面ケツ肉に包まれながら、チンポ汁、漏らしてしまえ…♡」

ヨ「んっああああ♡ んっうう

っああっ、イクイク♡ イック♡

ガキチンポレイプでっ♡ まんこイクう…♡

来いっ♡ さあ来いっ♡

濃いの出すんだっ♡

熱いのっ、びゅうびゅう…♡

おまんこの奥っ♡ 子宮目掛けて…♡

濃厚チンポ汁お漏らし…♡

熱々ザー汁ぶびゅうっと漏らせえ…♡

ん、んあ、んっ、うん、あんっ、あ、あっ、あんっ、いやんっ♡

イクイク♡ イック♡ んっうんうあっ♡

うう、ああっ、んうああっ、はっあああ…♡

ううあっあああっああ…っ♡

っああっ♡ んううあっ、んいいいっ、くううう…♡

出てる…♡ びゅっびゅうう…♡

はっああ…♡ 精液中出し…♡

青臭いチンポ汁、いっぱい出てる…♡

ふっ、あっ、あっああ…♡

おチンポは奥、届いてないのに…♡

射精の勢い強くて…♡ 子宮まで…♡

精子、突っ込んできてえ…♡

はっ、くっ、んっうんっ、くううう…♡

はぁ、はぁ、はぁ、はぁあ…♡

ふうううう…♡

ふう、はぁ、はぁ…♡

ああ…っ♡ セックス、気持ちいい…♡

ふふふふふ…っ♡「♡」

● 第7章

レ「どうだった、ボク…♡

お姉さんたちに犯されるのは…♡

怖かったか？

それとも…♡ それ以上に、気持ちよかったか…♡」

ヨ「ふふ…♡

さすがに連続でハメすぎたかな…♡

チンポが少し萎え始めてる…♡

少しばかり休憩としようか…♡

あんまりボウヤを怖がらせても、よくないだろうからな…♡」

レ「ああ、そうしよう♡

まだまだボクとは、長い夜…♡

過ごしたいからなあ…♡

ふふふふふ…♡

ヨ「おチンポ、あまり多くは刺激しないよう…♡

優しく…♡ しごいてやろう…♡」

レ「ほうら…♡ どうだ…♡

イキたておチンポ、ゆっくり、しこしこ…♡

がんばったおチンポに労い手コキだ…♡」

ヨ「お疲れのおチンポを、強くしごいては逆に突かれるだけだからな…♡

いくらボウヤが絶倫チンポを持っても…♡

連続で搾られるのには限界があるだろう…♡

そもそも、今日初めて、こんなにえっちなこと、

してもらっているわけだしな…♡」

レ「だが、かといって休ませるわけでもない…♡

あたしたちはまだまだ、ボクと楽しみたいんだからな…♡

こうしてゆっくりおチンポ刺激して…♡

キンタマにまた、ザーメン溜め込んでもらうんだよ…♡

わかるだろう…?」

ヨ「ボウヤのキンタマの中…♡

またじんわりと熱くなってきているのが…♡

精子がどんどん作られて…♡

次の射精の準備をしているのがな…♡」

レ「さあ、もっと気持ちよくしてやろう…♡♡

おチンポもキンタマも、しっかり回復できるように…♡」

ヨ「ボウヤのお耳…♡

またたつぷり、感じさせてやる…♡」

レ「どうだ…♡♡

気持ちいいだろう…♡♡

お疲れおチンポに、癒され耳舐め手コキは…♡♡

抜群に…♡」

ヨ「おチンポしぼるためにしごいてるんじゃないからな…♡♡

おチンポたつぷり癒されて…♡♡

またたつぷりぼつきしてもらうための、

愛情たつぷり手コキだからなあ…♡♡

ふふふふ…♡♡」

レ「今までいろいろ…♡♡

ひどいことも、優しいこともしてきたが…♡

ボクもそろそろわかってきただろう？

お姉さんたちとのえっち…♡

すごく楽しくて、気持ちいいって…♡」

ヨ「立派な冒険者になるために、あそこに来たはずなのになぁ…♡

もう冒険のことなんかすっかり忘れて…♡

お姉さんたちにおチンポ抜いてもらうことしか、考えられない…♡」

レ「それでいい…♡

冒険者なんて危ないだけだからな…♡

それよりも、お姉さんたちと、ずっとここで…♡」

ヨ「おチンポいいこいいこしてもらっている方が、

よっぽどいいものなぁ…♡」

レ「なぁ…♡

どこでするの一番気持ちよかった？

やっぱりおまんこか？

あたしに搾ってもらうのが一番だったか？

それとも、正常位でおまんこほじくる方が好きだったか？」

ヨ「それなら、私に抱きしめられながらする方がよかっただろう？

もしくは、意外とパイズリか？

むっちむちのおっぱいでおチンポ抱きしめられる方が、

ボウヤぐらいの年の男の子なら好きかもしれないなあ…♡」

レ「今日したこと…♡

いっぱい気持ちよかったこと…♡

これからもっとしたいこと…♡

どんどん思い出していいぞ…♡

頭の中、妄想でいっぱいにしろ…♡」

ヨ「お姉さんたちとした、えっちなこと…♡

お姉さんたちとする、えっちなこと…♡

どういう風におチンポイカせてほしいか…♡

じっくり考えてみるといい…♡

そうすればまた…♡

かっこいい勃起おチンポになるだろうからなあ…♡」

レ「んう…？

はは…♡ 出ちゃうだって…？

まったく…♡ ずいぶん硬いおチンポだと思ったが…♡

まさか、射精したくなってるとは…♡」

ヨ「癒しの手コキと言ったはずなんだがなあ…♡

おチンポたっぷり勃起させて、

次にする時のために、キンタマにザーメン、

試させるためにやっていたはずなのに…♡」

レ「まあいいさ…♡

出てしまいそうなら出すといい…♡

しっかりしごいていてやるからな…♡」

ヨ「ああ…♡

もう、私たちもわかっているからな…♡

ボウヤのおチンポが、私たちの想像以上に、

たくましい…♡ 大人顔負けのおチンポだとな…♡」

レ「だからイッていいぞ…♡

ゆっくり手コキでとぶとぶお漏らし…♡

気持ちよく…♡ 精液吐き出してしまえ…♡」

ヨ「お姉さんたちの手に包まれたまま…♡

お漏らしどっぴゅん…♡

どくどくびゅっびゅう…♡

ザーメンいっぱい出しちゃうなあ…♡」

レ「出せ♡ 出せ♡ イケ、イケ♡

チンポイケ♡ チンポイケ♡

イケ、イケ、出せ出せ出せ出せ…♡」

ヨ「チンポイケ♡ チンポ出せ♡

ザーメンどくどく♡ 熱々チンポ汁♡ びゅるるう…♡

イケ、イケ、イケ、イケ…♡」

ㇿ「びゅっびゅっびゅっびゅっ…♡

どくどくびゅるう…♡」

ヨ「ぶっぴゅっ…♡ びゅるるう…♡

どくどくどくどくどく…♡」

ㇿ「いっぱい出たな…♡

本当に、すごい量だ…♡」

ヨ「何回見ても驚かされる…♡

ボウヤより年上の、どんな男でも…♡

これだけのチンポ、持つてゐることはなかったからな…♡」

レ「だからかな…♡

あたしは…♡ いや、きっと、ヨルも…♡」

ヨ「ああ…♡

私たち二人とも…♡

ボウヤのことが…♡」

レ「だあい好きなんだ…♡」

ヨ「だあい好きなんだ…♡」

レ「好きだ…♡ 好きだぞ…♡

ボクのこと…♡

だあい好き…♡」

ヨ「大好き…♡ 愛してる…♡

好きだ…♡ 好きだ…♡

好き♡ 好き♡ 好き♡ 好き♡」

レ「もっといっぱい気持ちよくしてあげる…♡

大好きなボクに…♡

たくさん感じてもらいたいから…♡」

ヨ「みんなでいっしょに、幸せになろう…♡

耳もおチンポも、ぜんぶ…♡

幸せ…♡ 気持ちよく…♡」

レ「ほら♡ ほら♡

しこしこしこしこし…♡

おチンポしこし…♡

気持ちいい…♡」

ヨ「おチンポかっこいい…♡

ボウヤのおチンポ最高だ…♡

おチンポ好き♡ だあい好き…♡

いっぱい感じて欲しいんだ…♡」

レ「好き♡ 好き♡ 好き好き好き好き♡ 好き…♡」

ヨ「だあい好き♡ だあい好き♡ 好き♡ 好き…♡」

レ「うん♡ イッていいぞ…♡

出していいぞ…♡

ぞくぞく囁き耳舐めで、おチンポイッちやえ…♡

いっぱい出せるボクのこと、大好きだから…♡」

ヨ「ボウヤがいっぱい出すところ♡

また見せてくれ…♡

たくさん出して、お姉さんたち、

喜ばせてくれ…♡」

レ「大好き♡ 大好き♡ 愛してる♡ 大好きだあ…♡」

ヨ「好き♡ 好き♡ 好っき♡ 大好き、だあい好き…♡」

レ「出して♡ 出して♡ おチンポイッて♡

精子出して…♡」

ヨ「おチンポイッて♡ おチンポ出して♡

射精してえ…♡」

レ「おチンポお射精、どうぞお…♡」

ヨ「おチンポお射精、どうぞお…♡」

レ「びゅーびゅーびゅーびゅー…♡」

びゅ、びゅ、びゅ、びゅっ…♡」

ヨ「びゅるる♡ びゅるる…♡」

とっ♡ とっ♡ とっ♡♡ びゅっ♡…♡」

レ「ふふふ…♡」

ふふふふふふ…♡」

ヨ「ふふふふ…♡」

ふふふふふふ…♡」

レ「どうだ？」

ぞくぞく囁き…♡

気持ちよかっただろう？

だあい好き♡ なんて言ってもらえて…♡

おチンポあつという間にイッてしまったなあ…♡」

ヨ「私たちに、本当に愛してもらっているみたいだっただろう？」

ふふ…♡

ボウヤのような年の子には、まだ少し、

早かったかなあ…♡」

レ「ああ…♡ おかげで顔が真っ赤だぞ♡

そうか、そんなによかったのか…♡」

ヨ「本当に…♡ ボウヤの相手をするのは楽しいなあ…♡

まだまだお楽しみは尽きないなあ…♡

ふふふ…♡」

レ「さて…♡

イタズラも済んだことだし…♡

一度、風呂にでも入るとするか♡」

ヨ「ああ、それがいい♡

みんなしてどろどろだからなあ…♡

一旦身体を洗って、リセットするでしょう…♡」

レ「ボクの身体…♡

きれいきれいに洗ってやるからな…♡

ふふふふふ…♡」

● 第8章

レ「どうだ？ 驚いただろう？

宿の一室に、これだけの風呂があるというのは。」

ヨ「けして大きいわけではないが…。

そもそもこのランクの宿に、

一室ごとに風呂がついているというのがまず、

珍しいからな。」

レ「なぜだかわかるか？

それは、この宿が元々、そういう目的のために、
作られたものだったからだ…♡」

ヨ「昔はこの辺りは風俗街だったらしくてな…♡

この宿もかつては風俗店だった…♡

だから一部屋に一つ、風呂がついているというわけだ…♡」

レ「あたしたちがこの宿を懇意にして…♡

ボクをこの宿に連れてきた意味もわかったろう?」

ヨ「いくら身体が汚れても、すぐにきれいに出来る…♡

いや…♡ それどころかこの風呂場でさえ、

男と遊ぶことができるからな…♡」

レ「んう?…ふふ、どうしたんだ、ボク?

またおチンポが勃起しているじゃないか…♡

まったく…♡

今の説明を聞いただけでまた、キンタマ興奮させたのか…?」

ヨ「まったく…♡

さすが、若くていいおチンポだ…♡

今度ばかりは本当に、

ゆっくり風呂に浸かろうと思っていたんだが…♡」

レ「おチンポそんなに膨らませたのなら、

仕方がない…♡

またお姉さんたちが、ザーメンぶっこ抜いてやろう♡

ほら、ここだ…♡

またボクの方から、お姉さんのおまんこ…♡

後ろから突きまくってみろ…♡

かっこいいピストンでおまんこ突かれたら…♡

今度こそ本当に、ボクのこと、

好きになるかもしれないからな…♡」

ヨ「さあ…♡ 遠慮するな♡

後ろからずんずん♡ おまんこ犯すんだ♡

ボウヤもいつまでも、私たちに犯されているのは嫌だろう？

かっこいいオスになりたければ…♡

レイのおまんこ、ずんずん犯してみろ…♡」

レ「んっう…♡ ああ、そうだ…♡

そのまま、おまんこに…♡

っあああ…っ♡ いいぞお…♡

若くて元気な熱々チンポ…♡

何度入れても、気持ちいい…♡

んうあ、んっ、ん、んう、んっ…♡

やん、あんっ、いや、あん、あんっ、あう、うんっ、あ、んっ♡

っああ…っ♡ ふふふ…っ♡

いいぞ、いいぞ、その調子い…♡

年上メスまんこ♡ 必死にレイプしてみろ…っ♡

っはっぁあん…♡」

ヨ「ピストン上手♡ ばこばこ上手♡

おチンポの扱い、だいぶうまくなったじゃないか…♡

腰振りピストン、おまんこ突き上げ…♡

お姉さんのデカケツ、がっしり手で掴みながら、

ぱんぱんぱんぱん…♡

いっぱいおまんこ気持ちよくしてやるんだぞ…♡

ボウヤのおチンポなら、きっと出来る…♡

年上お姉さんをチン堕ちさせて、

ボウヤのお嫁さんにさせられるぞお…♡

ほうら…♡ 屈服チンポ、もっと大きくしてやろう…♡

ボウヤの乳首、こりこりいじってえ…♡

ほうら、おチンポびっくん…♡

これでさらに勃起するぞお…♡

さらさら…♡♡

っはぁ…♡

また耳舐めもしてやるからな…♡」

レ「あっ♡ あっ♡ んっあっ♡ やぁ…♡

どちゅどちゅっ♡ チンポっ♡

いいところまで入ってくるぅ…♡

必死に腰振りぱんぱん…っ♡

尻肉揺らされてっ♡ おチンポ奥までっ、

突き入れられてえ…♡

んっ、あっ♡ いいっ♡

おまんこ気持ちいいっ♡

おチンポもっと膨らんでっ♡

おまんこ弱いところっ♡

当たるように…っ♡ ふふふ…っ♡

んっ、うん、あんっ、あ、あっ、あんっ♡

ん、あん、はぁ、ああん、うん♡

ああっ♡ 好きっ♡ このチンポっ♡

ガキチンポのくせにっ♡ 好きっ♡

チンポ好きにされちゃってるぅ…♡

あんっ♡ あんっ♡ あんっ、あっああん♡」

ヨ「ほうら…♡ レイがどんどんボウヤのおチンポ…♡

ボウヤのこと、好きになってきた…♡

乳首くりくりいじめられて、大きく勃起したおチンポで、

バックでハメハメ♡ まんこほじほじ…♡

メスの一番弱いところ突かれまくって、ボウヤの女になってきたぞ…♡

そのまま堕とせ…♡ レイのこと、チンポで堕とすんだ…♡

ボウヤだけのハメ穴爆乳お姉さんにして…♡

いつでもおチンポあまやかしてもらるようにしちゃおうな…♡

ほら、ほら、ほうら…♡」

レ「あんっ、あっ、んあ、ああんっ♡

ああ、あん、うん、うつぶ、うん、あは、あんっ、あんっ、あんっ♡

っあああ…っ♡ チンポっ、びくびくぅ…♡

んっううう…っ♡

何？ 出る…？ はは…っ♡

射精するのか？ いいぞ…っ♡

また中出し…♡ ボクのおチンポであつたまったおまんこに…♡

どっぴゅんお射精、していいぞお…♡

ほら、ほら、出せ出せ、っああ…♡

ガチガチチンポ、ザー汁お漏らしい…♡

お姉さんまんこ、真っ白に汚して…♡

ガキチンポザーメンでマーキングしろ…♡

ん、んあ、あん、ああ、あん、ああんっ♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん…♡

んっ、あっ、あっあっ♡ はっあああ…っ♡

んっ、んっ、んっ、んっ、んっ、んっうん…♡」

レ「あっああああ…っ♡

んっ、ふっ、はっ、はっああ…♡

っああ…♡ 出てる、出てるぞ…♡

熱いのいっぱい、びゅるびゅるびゅるう…♡

また中出しされてるう…♡

年下濃厚ザーメン種付けで…♡

おまんこ気持ちいい…♡

はっ、ふっ、はっ、はっああ…♡

ふっう、ふっう、ふっう、はあああ…♡

っああ…♡ はあ、ふう、はあ…♡」

ヨ「ふふ、おチンポお疲れさま…♡

さあ、次は私の…♡」

レ「待て…っ♡

まだだ…♡ もう一回…っ♡

出来るだろう？ ボクのおチンポ、まだ元気そうだしなあ…♡

次はここだ…♡

ここにボクのおチンポ、突っ込むんだ…♡

おまんこじゃあないぞ…♡

あたしの、尻の穴…♡

アナル交尾はまだ、体験していなかっただろう？

お姉さんのケツ穴まで…♡

おチンポで屈服させてみたいだろ…♡」

ヨ「ふん♡ まあいい…♡

さあ、ボウヤ♡ チャンスだぞ♡

どうやらレイは、まだチン堕ちしてないみたいだ♡

だが、連続交尾…♡

しかもケツハメおねだりなんてしてきたと言うことは…♡

もう、陥落寸前…♡

尻の穴までボウヤのおチンポで真っ白に汚してしまえば…♡

完全に、レイはボウヤのものだ…♡

ほら、入れろ…♡

尻穴にチンポずっぽりハメて…♡

アナルセックス…♡ 味わってみろ…♡」

レ「んい…♡ ああ、おチンポ熱い…♡

うっあっあああ…♡」

レ「んっうあっ、あっふっ、おっ、んっお、んうっ♡

んい…♡ はっ、はっ、んっふう、はあああ…♡

はっ、はあっ、んっあっ、はあああ…♡

んっ、んっ、んうう…♡

くううん…♡

ケツハメっ♡ 交尾いい…♡

お尻っ、熱いっ♡ ああああ…っ♡

ボクのおチンポっ♡ 強い腰振りっ♡

尻肉だっぶんだっぶん揺さぶられてっ♡

アナルに快感っ♡ 伝わってえ…♡

っふう、ふう、っはあ、はあ…っ♡

あっ、んっあ、んうああ…っ♡ はああ…っ♡

はっああっあああ…♡

気持ちいいっ♡ 尻穴気持ちいい…♡

あっ、うっ、あっ、はあああ…っ♡

あっく、んううう…っ♡

んっひいっ、はああ…っ♡」

ヨ「ほら、見ろ…♡

レイの尻穴…♡ こんなに拡がって…♡

ボウヤのおチンポぐっぽり啜えて…♡

エロ尻揺らしておチンポに甘えまくり…♡

もう完全に、レイはボウヤのものになったな…♡

お尻の穴まで全部、ボウヤのおチンポの形、覚えさせられて…♡

ボウヤなしじゃあ生きていけない…♡

おチンポ好き♡ ボウヤのことが好き♡

ちょうだい♡ ちょうだい♡ ザーメンちょうだい…♡」

レ」あっ♡ うっ♡ あっ、あっああ…♡

イック♡ イック♡ ようやく♡

尻穴あ…♡ うううああ…♡

アナルイク♡ 尻穴イク♡

イクから…♡ 出せ…♡

出してくれ…♡ ボクのザー汁…♡

お尻にいっぱい…♡

ううううんあ…♡

出して♡ 出して♡ 出せ♡

出っせ♡ んううああっ、くううう…♡

尻穴中出し♡ 熱々精液びゅーびゅー中出し…♡

お尻にいっぱい、熱いの出して♡

チンポイケ♡ チンポイケ♡

ガキチンポ汁♡ いっぱい漏らせえ…♡

あっ、っはあっ、んううあっ、はああ…っ♡

っはあっ、っはああ…っ♡

あっ、あっ、んっあっ、はああ…っ♡

うううあっああああ…っ♡

イックうううう…っ♡」

レ「ううああっああああ…っ♡

んうううああっ、くううっ、ふううああああ…っ♡

ふっ、ふっ、ふっ、うううう…っ♡

お尻っ♡ アクメえ…っ♡

ケツイキっ、気持ちいい…♡

お尻にザーメン、どっぶどぶう…♡

ああ、最高お…っ♡ っはあ、っふう、はあああ…♡

はあ、はあ、はあああ…♡

んうっおあ…っ♡

はあ、はあ、はあ…♡」

ヨ「やっと私の番だな…♡

こうなれば私とも、連続交尾…♡

してもらわないといけなくなったぞ…♡

出来るよな？ ボウヤなら…♡

しっかり気持ちよくしてくれるよな…？

ああ、任せたぞ…♡

なら、レイにしたのと同じように…♡

私のことも、気持ちよくしてくれ…♡

んっうっ！？

そ、そっちは…っ♡

っおおう…っ♡

っああ、くうう…っ♡

おし、りい…♡

そう、か…っ♡ レイと同じと言ったから…っ♡

くっうう…っ♡

んっ、あっ、あっ、ああああ…っ♡

あっ、あっ、あっ、あっ、ああああ…っ♡

っあああ…っ♡「

ヨルの尻穴まで狙うとは…♡

ボクも意外と、男らしいところが出てきたな…♡

なら、あたしもそんなボクのこと、応援してやろう…♡

さっきのお返しに…♡

ボクのケツ穴あ…♡

っはあ…♡

にゅっぷり…♡ 舐めてやる…♡」

ヨ「っあああ…っ♡

おチンポっ、お尻の中で膨らんでっ♡

んううう…っ♡

アナル交尾っ♡ 気持ちいいっ♡

デカケツっ♡ 小さい手で支えられながらっ♡

ガキチンポでアナルっ♡ じゅぼじゅぼお…っ♡

っはあっ、っはあっ、んんんっ、はっ、ふうっ、っはあっ♡

ああああ…っ♡ んっくうあ♡ んっいい…♡

ああ、ボウヤ…っ♡

もっとだっ♡ もっとしてくれえ…♡

私の尻穴っ♡ ボウヤのためにつ、あるからなあ…♡

私のお尻でいっぱいっ♡ おチンポっ♡

感じてくれえ…♡」

レ「騙されるなよ、ボク…♡

ヨルはウソつきだからな…♡

おチンポ屈服なんてまったくしてない…♡

今もケツ穴で、ぎゅうぎゅうでおチンポ締め付けて…♡

逆に、ボクのおチンポを、自分のものにしてようとしてるんだぞ…♡

負けるんじゃないぞ…♡

気をしっかり持って…♡

おチンポに意識集中させて…♡

ヨルの言いなりにならないよう、逆に…♡

本当にチン堕ちさせてやれ…♡

強いおチンポでケツ穴どちゅどちゅ…♡

ウソを本当にしてやれ…♡」

ヨ「はっ、ふっ、はっ、はっ、はあっ、んうあああ…っ♡

んうあああつ、ああああつ、あつ、うああっ♡

くうっううん…っ♡

そんなことはっ、ない…っ♡

私は本当にっ♡ あああ…っ♡

ボウヤのチンポにっ、負けているんだ…♡

もうっ、んうああっ♡

すっかりおチンポ大好きで…っ♡

尻穴っ♡ おチンポっ、ベタ惚れでえ…♡

おチンポぎゅうぎゅう締め付けて…っ♡

くうっううん…♡

ほらっ♡ ボウヤ…っ♡

だから、出してくれ…♡

もう精液、出ちゃいそうなんだろう？

んっううん…♡

ザーメンびゅるびゅる♡ 私の尻穴…♡

出しているから…♡

出して欲しいから…♡

中出しっ♡ どっくんっ♡ チンポ汁びゅるるう…♡

ケツ穴出してっ♡ アナル中出しっ♡

イッてっ♡ イッてっ♡ おチンポ汁っ♡ 出してえ…♡

んっ、あっ、あっ、あっ、あっ、っあああ…っ♡「♡」

ヨ「んうううんんうん…っ♡

あああっ♡ ううっあああっ♡

あっ、んっ、はっあああ…♡

ああ、熱いの出てる…っ♡

びゅくびゅく、どっびゅうう…♡

お尻、あっつい…♡

はああ…♡ 尻穴射精…♡

最高だあ…♡ はあ、はあ、はあ、はあああ…♡

んっううん…♡

ふっ、はっ、ふっ、はっあああ…♡

んいっ!?

ぼ、ボウヤ…っ。

あああああ…っ♡

いきなり、おまんこにい…っ♡

んっうん…♡

ああっ、んうああ…っ♡ はっ、はあっ♡

ふううっ、んうああ…っ♡

はっああん…っ♡」

レ」は…っ♡

いいじゃないか、ボク…♡

尻穴レイプで敏感になったおまんこに、

即ハメピストン…♡

おチンポ不意打ち成功してるみたいだぞ…♡

そのままたっぷりおまんこもレイプするんだ…♡

ヨルを本当に、ボク専用の年上ハメ穴メスまんこにしてやるんだ…っ♡

アナル舐めで、チンポ勃起の手伝い…♡

いっぱいしてやるからな…♡」

ヨ」はあっ、はあっ、んっあ、ああ…っ♡

あああっ、ああああっ、っんんっ♡

んっうううん…♡

ボウヤがこんなにっ♡ セックスっ♡

上手になっているなんて…っ♡

はっぁぁぁ…♡

おまんこ気持ちいい…っ♡

ボウヤのかっこいいおチンポでっ♡

本当に…♡ おまんこっ、感じさせられてる…っ♡

っぁあっ、っんっ、んんっあっんんいっ♡

いっっ、いっぁあっ、あっ、っん…♡

ぁぁぁ…っ♡

おチンポっ♡ 気持ちいい…っ♡

ボウヤのおチンポにっ、おまんこっ♡ 反応して…っ♡

まんひだうねらせてっ♡ ザーメン、本気でっ♡

おねだりしてる…っ♡

うっ、くっ、うううっ♡ ぁぁぁ…♡

ボウヤっ♡ ボウヤぁ…♡」

レ「そろ…♡ ヨルがおまんこ、屈服しはじめたぞ…♡

今だ…♡ チンポ射精しろ…♡

熱々ザーメン、屈服まんこに注ぎ込んで…♡

おまんこ種付け…♡

よわよわまんこに精液注がれたら、メスは絶対、

そのオスに惚れてしまうからな…♡

今出せば、ヨルをボク専用のオナホまんこにしてやれるぞ…♡

さあ、さあ…♡ チンポイケ…♡

チンポ出せ…♡

射精しろ…♡ ザーメン中出し…♡

びゅるびゅるどっぴゅう…♡」

ヨ「んっううううっああっ、っあっ♡

ああっ、っんんっ、んんっ♡

んうあっ、ああああっ♡

イクイクっ♡ イックっ♡

年下チンポでおまんこイックっ♡

中出し来るっ♡ 種付け来ちゃうっ♡

子作り射精でおまんこ屈服来ちゃうっ♡

っああああ…っ♡

イック♡ イック♡ イック♡ うううあああ…っ♡
イクイクイクイク♡ イクイク♡ ううあああ…っ♡
あっ、ああああっ、あああっんんっああっ♡
あんんっ、あっ、あっんんっ、っいいっ♡
っいいっ、いいいいああ…っ♡
ううあっああああ…っ♡」

ヨ「んうあっああああ…♡

あああっ♡ ううっあああっ♡
んっいい♡ んうううあっ♡

くうううっ、ふううううう…♡

イツて♡ イツてるっ♡ イキまんこっ♡

中出しっ♡ あっああああ…♡

熱いのたくさん…♡ 中に、びゅるるう…♡

年下種付けザー汁でっ♡ おまんこっ♡

いっばあい…♡

はっあ、っはあ、っはあ、はっああああ…♡

んふふふふ…♡

っはぁぁ…っ♡

ふう、はぁ、ふう、ふううう…っ♡

ふふふふふ…っ♡」

レ「よくやったな…♡ ボク…♡

本当に、セックス上手になったぞ…♡」

ヨ「ぁぁ、まったくだ…♡

とはいえ…♡

チンポに屈服なんてのはほど遠いがな…♡

よわよわまんこのレイと違って…♡」

レ「何を言う…っ♡

あたしだって、別にこいつのおチンポなんかにはまだ、

負けていない…♡」

ヨ「ほお？ まだ、と言ったな？

では、いずれ…♡」

レ「そういう意味じゃあないっ♡

揚げ足を取るな、まったく…♡

そんなことより…♡

今でまた、すっかり身体があったまってしまった…♡

さっさと身体を洗って…♡

またベッドに行くぞ…♡」

ヨ「ああ…♡ 夜はこれからだぞ…♡

ボウヤのおチンポの実力…♡

もっとお姉さんたちに見せてくれ…♡

ふふふふふ…♡」

● 第9章

レ「さて…身体もきれいに洗ったところで、

また一つ、変化をつけようか♡

面白い魔法があるのでな」

ヨ「面白い魔法？

…ああ、あれのことか♡

なら、私にも頼むぞ、レイ♡」

レ「ああ、わかってる♡

見ていろよ、ボク…♡

さあ、これで効果が出るはずだ…♡

どうなったと思う？..」

ヨ「答えはこれだ…♡

おっぱいを搾ると…♡

んう…っ♡

っはぁ…♡ こうして母乳が出るようになったわけだ…♡

どうだ？　すごいだろう…♡」

レ「一度身体をきれいにしたのもこのためだ…♡

一旦きれいにしていないと…♡

身体中、母乳でどろどろになるようなえっちをしても、

興奮が薄いだろう…♡」

ヨ「ふふ…♡

爆乳おっぱいから溢れる母乳に、

ボウヤのおチンポも待ち切れなさそうだ…♡

さぁ、初めてやろう…♡」

レ「母乳溢れるお姉さんたちに…♡

おチンポたっぷり搾られて…♡

気持ちよくなろうなぁ…♡

さぁ…♡

まずはおチンポ…♡　改めて、おしゃぶりからだ…♡」

ヨ「ならば私は…♡

さっきのレイのように…♡

ボウヤのお尻、舐めてやろうか…♡

私もしてやりたかったんだ…♡」

レ「おチンポと尻穴…♡ 同時に舐めしゃぶられて…♡

キンタマザー汁、たっぷり吐き出せえ…♡

んううああ…♡」

ヨ「はは…♡

ボウヤのお尻…♡

とってもいい味がする…♡

風呂から出たばかりだというのに、

若いオスの匂いがぷんぷん匂って…♡」

レ「おチンポも、しっかり洗ってやったはずなのに…♡

もうこんなにオス臭く…♡

身体の中から染み出てきているみたいだなあ…♡

ふふふ…♡」

レ「あああ…っ♡ 喉奥ぐっぽり…♡

こちらからチンポ迎えに行くの、たまらない…♡

ガキチンポ奥まで咥え入れて…♡

身体中、ぞくぞくしてえ…♡

くううう…っ♡

おっぱい、溢れるう…♡」

ヨ「私もだ…♡

こんな間近で…っ♡

オスガキのケツの穴の匂い、嗅いでいたら…っ♡

っああ…っ♡

おっぱい噴き出るの、抑えられない…っ♡」

レ「んっううっ♡ んっふっ、くふっうううっ…っ♡」

ヨ「んっふ♡ んっふ♡ んふうう…っ♡」

レ「っはあ、っふう、はああ…♡

とろとろカウパー溢れてきて…♡

こいつだな…♡

このオス臭い匂いの正体はあ…♡

すんすん、すんすん…♡

っぁぁ…♡ くっさぁ…♡

くううう…♡

チビガキのくせに、こんなに立派なオスの匂い、染み出して…♡

悪い子だぁ…♡」

ヨ「唾液べっちよりべろべろ舐められて、

尻穴ゆるくなってるぞ…♡

ペロが奥までにゆるっと入って…♡

前立腺責めえ…♡

してほしそうだぞ…♡」

ヨ「はぁぁぁ…♡

ボウヤの尻穴…♡ 前立腺ほじりい…♡

ぞくぞく、止まらない…♡

頭が幸せで満たされる…♡

オスガキアナル…♡

なんて愛おしい…♡

くううう…♡

愛情たっぷり母乳、止まらない…♡」

レ「チンポびくびく止まらない…♡

イクのか？ もう出るのか？

お姉さんたちのケツほじりおしゃぶり、

耐えきれないか？ ふふ…♡

ああ、いいぞ…♡ 出せ、出せ…♡

またあたしの口の中に、ザー汁、ぶびゅるうってえ…♡」

ヨ「いっぱい出すんだぞ…♡

たくさんキンタマ射精できるよう…♡

前立腺、いっぱいほじくってやるからな…♡

尻穴たっぷり気持ちよくしてやるからなあ…♡」

レ「出せっ♡ 出せっ♡

チンポイケっ♡ 射精しろっ♡

イケっ♡ 出せっ♡ イケっ♡ 出せえ…♡」

ヨ「出せっ♡ オス汁出せっ♡

チンポ汁出せっ♡ たっぷり射精い…♡」

♪「2うううん...ん」♡

んんん、んんんん♡ 2うううん♡ 2ううん♡

んん...んん♡

ん、うん♡ 2うん♡

「♡...♡」

♪「んんん...♡

ん♡ うん♡ 2うん♡

んんんん...♡

んん...♡

ん、ん、ん...♡

んん...♡ 2ん♡ 2んん♡

んんん♡ 2んんん♡ 2んん♡

んんん...♡

んん...♡ 2ん、はん♡

んは♡ 2うう...♡

んん...♡

は、は...♡

ボクのザーメン、量も匂いもすさまじすぎて…♡

母乳、止まらない…♡

射精されても、ごっくんしても…♡

たくさん、溢れてえ…♡

ふう、ふう…♡」

ヨ「ああ…♡ 身体が熱い…♡

私もおチンポしゃぶりしてやろうと思ったが…♡

それじゃあ治まらなそうだ…♡

おチンポしてくれ…♡

私のおまんこ、そのチンポで、いっぱい犯してくれ…♡

ふふ…♡

またそちらからピストンしたいのか？

ああ、もちろんいいぞ♡

なら…♡ ちょうどこちら側に壁がある…♡

これで支えれば、駅弁交尾もできそうだ…♡

ほら、ボウヤ…♡

お姉さんのおまんこ、下からどちゅどちゅ突き上げてみる…♡

んっう…♡ ああ、そうだ…♡

がんばって、身体、持ち上げてえ…♡

んっう…♡

ああっああっああ…♡

ううっっ、くうううう…♡

おチンポ、熱い…♡

おっぱい、止まらない…っ♡

んっ、んんっうううっ、うああっ、あああああんっ、んっ♡

あっ、あっ、っあああっ、んっ、ああああんっ♡

んっあああっんっ、んいっっ、いっいっいっ…っ♡

はっああっあああ…っ♡」

レ「ふふ…♡ ヨルのおまんこは気持ちいいか？ ボク…♡

女を抱え上げながら、突き上げセックス…♡

それが出来れば、男としては一人前だな…♡

そら…♡ ご褒美だ…♡

立派な男の尻穴…♡

舐めてやる…♡

っはあ…♡

チンポがちがちに勃起させて…♡

ヨルの発情まんこ♡ もっと突きまくれ♡」

ヨ「いいっあっ、んんんうっ、うっああっ♡

ああああっ、ああんっ、んんっ♡

うううん…♡

ボウヤっ♡ ああ…っ♡ 硬いおチンポっ♡

すっごくいい…♡

ううっ♡ あああ…っ♡

駅弁抱え上げ交尾…♡

からかってやろうと思って始めたのに…っ♡

ボウヤがっ、思っていたより成長して…っ♡

おチンポっ、気持ちいいところっ♡

ごっごっ当たってえ…♡ うううう…っ♡

んんんああんっ、あああっんんいいいいいいっ♡

っああっ、んんんっ、っううっ、うあっ、ああ…っ♡

んんっ、んっああっ、ああっ、っんんっ、っああっ♡

あんんんいいっ、っあああああっんっ♡

はっああああ…っ♡

レ「くううう…っ♡

尻穴…♡ さっきも舐めたはずなのに…♡

さっきより、さらに美味しくなっている…♡

もっといっぱい、舐めたくなってえ…♡

はあああ…♡

おっぱいも止まらない…っ♡

これは、魔法のかけ方、間違えたか…♡

少し強くしすぎて…っ♡

くううう…♡

発情、止まらなくなって…♡

ふう、ふう、ふうう…っ♡

ヨ「んううっ、うああっ、あっ、あっん…っ♡

んあっ、っんっ、んあっ、っんっ、んiiiiiiiiっ♡

っあっ、ああああ…っ♡

んっいい…っ!？

っあっあああ…♡

ボウヤのチンポ…♡

さっきより大きく…♡

これは、私のおまんこが、敏感になっているだけか…っ♡

おまんこ喜んで、おチンポ、

大きいように勘違いして…♡

ううっあああ…っ♡

そこっ、そこっ♡ 弱点っ♡ 私の…♡

ボウヤに見つけられるなんてっ♡

あっあああ…♡

いや、やっぱり違う…♡

明らかに、さっきより勃起、強くなってえ…♡

オスガキチンポのはずなのにつ♡

大人まんこっ♡ ほじくられてえ…♡

んっ、はっ、はあああ…♡」

レ「んう…♡

尻穴ひくついて…♡

出そうなのか…♡

またいっぱい射精しちゃいそうなんだな…♡

ああ、いいぞ…♡

出せ…♡ 熱々ザーメンどっぶり出せ…♡

ヨルのまんこ、また…♡

真っ白キンタマ汁でいっぱいにしろ…♡

私もたっぷりケツ穴ねぶっていてやるからな…♡

ザーメン出し切るまで…♡

ヨルのおまんこ、精液で満杯になるまでえ…♡

くううう…♡

ボウヤの尻の臭い嗅いで…♡

おっぱい撒き散らしながら、尻穴あ…♡

いっぱい気持ちよくしてやるからなあ…♡」

ヨ「うあつ、あんつ、ああああっんっ♡

ああつ、あんつ、っいいいい…っ♡

うああああつ、んんんっあつ、ああっんっ♡

ううあああああ…っ♡

イック♡ イック♡

ボウヤのチンポでっ♡ まんこイクっ♡

アクメ止められないっ♡ 我慢できないっ♡

あっ、うううっ♡ あああっ♡

イクイクっ♡ ミルク噴き出しながらまんこイクっ♡

ああっ、ボウヤあっ♡ 出してえ…♡

私のおまんこっ、中出しびゅうびゅうっ♡

たくさん汚してえ…♡

いっぱいにしてえ…っ♡

んんああんんっ、いいいいっ、いいいいあああ…っ♡

んうあっ、ああああっ、んうううあっ♡

うううああっあああ…っ♡

イクイクイクイクっ♡

イググ♡ イググ♡ イググ♡ うううう…っ♡

っああああ…っ♡

うううああああ…っ♡

んううううああああ…っ♡

イクイクっ♡ イクイクイクイクうっ♡

んっううう…♡

母乳噴き出しながら中出し…♡

気持ちよすぎるう…♡

うっ、あっ、あっ、はっああ…♡

くっううん…♡

ふっ、はっ、ふっ、ふうう…♡

ふっう、ふっう、ふはっああ…♡」

レ「はぁ、はぁ…♡

ああ、ボク…♡

おチンポ、やっぱり…♡

大きくなってるみたいだな…♡

若い者の成長は著しいと言うが…♡」

ヨ「ふう、ふう…♡

ああ…♡ 成長おチンポ…♡

まだまだ深く、味わいたくなったぞ…♡

発情も止まらない…♡

もっとたくさん…♡

ボウヤのザーメン…♡

私たちがいただくぞ…♡

キンタマ、たっぷり働かせるんだぞ…♡

ふふふふふ…♡「♡」

● 第10章

ヨ「ほら…♡ チンポをこっちに向ける♡

母乳たっぷり溢れるおっぱいで…♡

パイズリしてやるからな…♡

母乳ローションでにゆるんにゆるんにして…♡

精液たくさん搾り出してやる…♡

ほら、ここだぞ…♡

お姉さんの、むっちりおっぱいの間にい…♡

ガチガチ勃起おチンポ、挿入う…♡

っああ…♡

熱い…♡ チンポ、硬い…♡

乳房押し返してきて…♡ くっうう…♡

っああ…っ♡ 母乳ローションいっぱい出るっ…っ♡

あっはあ…っ♡

んっ、ふっ、はあ、はあ…っ♡

そら、そら、そうら…っ♡

パイズリセックスう…♡

縦パイズリで、おチンポ甘々逆レイプだぞお…♡

ばっちゅんばっちゅん…♡

エッチな音がいっぱい鳴ってえ…♡

あはあ…♡」

レ」ほうら…♡ 年上お姉さんのおっぱい、気持ちいいなあ…♡

あたしのも、背中ですっぱい感じていいぞお…♡

ぽっかぽかでみっちみちの爆乳おっぱいの感触う…♡

一生忘れられないようにしてやるからな…♡

ほら、ほら、ほうら…♡

むちむちおっぱい、ぎゅっぎゅっぎゅう…♡

背中ですりずり…っ♡ んあ…っ♡

乳首こすれて、感じちゃう…♡

っああ…♡

はっ、ふっ、はぁぁぁ…♡

発情吐息まみれの耳舐めも…♡

してやるからなぁ…♡」

ヨ「ふっ♡ ふっ♡ ふっ♡ ふっ♡…っ♡

こら♡ また腰が引けてるぞ♡

気持ちよすぎて逃げようとするな♡

うしろにはレイがいるんだからな♡

そんなことしてもムダだぞ…♡

観念して、お姉さんの気持ちいいにゆるにゆるパイズリで、

キンタマザーメン搾られろ…っ♡

愛情たっぷり、乳圧ぎゅうぎゅう、

おチンポ乳肉で包み込んで…♡

ぐっぽん、ぐっぽん…♡

パイズリ逆レイプう…♡

ボウヤのおチンポ、いっぱい喜ばせてやるからな…っ♡

ほらっ、ほうら…♡ おっぱいぎゅうぎゅう…♡

パイズリばちゅばちゅ♡ すりゅすりゅ♡ ぬっちゅう…♡

っああ…♡ 乳圧かけ過ぎて、また母乳、噴き出してえ…♡

はっああ♡ はっああ♡ はああ…♡」

レ「また顔が真っ赤になってきてるぞ…♡

もう中出しセックスだって何度も経験してるのに…♡

パイズリしてもらうのがそんなに恥ずかしいのか？

まだまだガキだなあ、本当に…♡

おっぱい大好きなくせに…♡

おっぱい好きだから、おっぱい交尾に反応しまくり…♡

パイズリレイプうれしすぎて、ガキチンポ、

がっちがちい…♡

もっと素直になったらどうだ？ ん？

おっぱい好きです♡ パイズリ大好き♡

お姉さんたちのおっぱいでしてもらうの大好きです…♡

言ってみろ…♡

ほら、ほらあ…♡

恥ずかしいところ、見せてみろお…♡

っはあ…♡

わかるだろう…？ こっちだって、ボクのこと好きすぎて…♡
おっぱいこんなに、漏れてるんだからな…♡」

ヨ「ああ…っ♡ おっぱいの中で、チンポびくびく跳ね回って…♡

この暴れ方…っ♡

この動きで本当のまんこほじくられたら、絶対イッてる…♡

パイズリ逆レイプされてるだけなのに…♡

ガキチンポ生意気に、おまんこイカせようと暴れてる…♡

おっぱいまんこまでイカせようと、おチンポ、

イキらせてえ…♡

はあ、はあ、っああ…っ♡

くうう…♡ おまんこハメてもらってるの想像して…っ♡

また母乳う…♡ ふううっ、はあああ…っ♡

ふっ、はっ、はっあっ、んう…♡

んう？ もう出る…？ あは…っ♡

ザーメン出ちゃうのかあ…♡

いいぞ、いいぞお…♡

パイズリ交尾で中出ししろ…っ♡

ほかほかチンポ汁♡ 母乳まみれのパイズリまんこにぶちまけろ♡

ほら、もっと乳圧強くしてやるから…♡

いっぱい出せ♡ いっぱい漏らせ♡

イケ、イケ、イケ…♡

チンポ汁、びゅるるう…♡

んうんうんあ…♡

あはっ♡ 出てるっ♡ 熱いのっ♡

どくどく、どっびゅう…♡

おっぱいの中、ぽっかぽかあ…♡

レ「っはああ…♡

ああ、射精してるの、わかつちやうなあ…♡

どつくんする度、びくびく肩を震わせて…♡

かわいいなあ…♡ ボクは本当にい…♡

おチンポはかっこいいのに…♡

かわいくってかっこいいオスガキめえ…♡

よしよし、よしよし…♡

いっぱい出せて、えらいえらい…♡

ヨ「っはぁ…♡

あぁ、私のおっぱいの中…♡

こんなにザーメンまみれにされてしまったぞ…♡

見ろ…♡ どろどろオス汁ぶちまけられて…♡

おっぱい、真っ白だ…♡

ザーメン臭、漂って…♡ くぅ…っ♡

匂いだけでまた…♡

母乳、出ちやいそうで…♡」

レ「次はあたしの番だ…♡

今度はあたしのまんこにハメてもらうぞ…♡

ほら、どうしてほしい？ 言ってみろ♡

騎乗位で搾って欲しいか？

抱き着きながら対面座位で甘々中出ししてみたいか？

それとも…ん？

後ろ向いて…？ ふふ…♡

またあたしのデカケツ掴みながら、バックでしたいのか？

あぁ、いいぞ…♡

それならまた、ガキチンポでたっぷり、まんこ犯してもらうかな…♡

これでいいか?...んうあっ!?

な...っ、え...っ!?

こ、この格好は...っ

んあ...っ♡

んううううん...っ♡」

ヨ「ふふ...♡ 後ろから抱え上げて、背中向きに駆弁交尾か...♡

さっき私のおまんここうして突き上げたのが、

相当気持ちよかったみたいだな...♡

そうだなあ...♡

ボウヤだってオスだもんな...♡

目の前に自由にハメれるメス穴があったら...♡

オスの強さ刻みつけるように、犯してやりたいよなあ...♡

わかる♡ わかるぞ...♡ ボウヤの気持ち...♡

ほら、いっぱい突け...♡

いじわるお姉さん、おチンポで突き上げて、

たっくさん喘がせろ...♡

また、年上メスまんこ屈服チャレンジ、始まるぞお...♡

ふふふふ…♡」

レ「あっ♡ あっ♡ んううあっ♡

んいいいい…っ♡

オスガキチンポでおまんこレイプっ♡

くうううう…っ♡

気持ちいいいい…っ♡

っああああ…っ♡ また出るっ♡

いっぱい出るっ♡ 母乳止まらないっ♡

うっああああ…っ♡

年下チンポ突っ込まれてっ♡ まんこ喜んでるっ♡

まんこうれし泣きっ♡ メス汁だらだらっ、止まらない…♡

うううっ、ああああ…♡

こんな恥ずかしい格好で責められてるのに…♡

おまんこ感じまくってる…っ♡

ガキチンポにおまんこっ、惚れ込んでるう…っ♡

ううっああああ…っ♡

ああっ、はっああああ…っ♡

あんっ、んっ、あんっ、あんっ、んっ、ああんっ♡

くうううん…♡」

ヨ「見ろ…♡ ボウヤより年上の女が、

おチンポ突き上げるたびにメス汁垂れ流している…♡

ボウヤのおチンポがそうさせてるんだ…♡

ボウヤのおチンポがかっこよくて、たくましくって、優秀でえ…♡

見ている私まで…♡

興奮してえ…♡

っああああ…っ♡

おっぱい出ちゃう…♡

ボウヤのこと、本気で好きになってきているみたいだ…♡

ウソじゃない…っ♡ 今度こそ本気で…っ♡

ボウヤのおチンポ…っ♡ 大好きにい…♡」

レ「あんっ、あああんっ、あんっ、あんっ♡

あんっ、あんっ、んっ、あんっ、あんっ、あんっ♡

っくっくううんっ、あっあああ…っ♡

チンポっ♡ すごいっ♡

チンポでぐちゅぐちゅっ♡ おまんこっ、ほじられてえ…♡

んううあっあああ…っ!?

うっあっあああ…っ♡

ううっ、ああっ♡ 好きっ♡

好きだっ♡ こんなっ♡ 年下チンポにっ♡

おまんこっ、恋してえ…っ♡

好きになってえ…っ♡

んっいいい…っ♡

あんっ、んっ、んっ、ああんっ、んっ、ああんっ♡

うううう…っ♡ イクイクっ♡

イククっ♡ まんこイクっ♡

イッちやうイッちやうっ♡

オスガキチンポにまんこガチイキっ♡

アクメ来るっ♡ アクメ来るうう…っ♡

ヨ「ほら、出せ出せ…♡

年下ザーメンびゆるびゆる種付け…♡

年上お姉さんを孕ませびゅっびゅ…♡

年の差なんか無視して、おチンポだけで、

おまんこ屈服…っ♡

今度こそ、爆乳お姉さんを自分専用のメス穴に、

作り変えちゃおうな…♡

ほら、出せ、出せ…♡

おチンポ射精…♡ おチンポ種付けえ…♡

っああ…っ♡

射精、想像するだけで私もお…♡

おっぱい止まらないいい…っ♡

はっ、はっああっ♡

出せっ♡ 出せっ♡ 射精しろお…♡

かっこいい中出し、見せてくれ…っ♡」

レ「うううあっあああ…っ♡

イグイグイグイグっ♡

ホントにイクっ♡ マジイキ来るっ♡

おまんこイック♡

年下本気セックスでイック♡ イック♡

イグイグイグイグっ、ううああああ…っ♡

出してっ♡ 中出しっ♡

中にくれっ♡ お姉さんまんこっ♡

オスガキザーメンでいっぱいにしてえ…♡

んっ、あんっ、あああああんっ、あああんっ♡

ああんっ、ああああんっ、あんっ♡

はっあっああああ…っ♡

いっぎゅううっううう…っ♡「♡」

レ「んううあっああああ…っ♡

うううああっ♡ はっああああ…っ♡

うっ♡ くううっ♡ んっいっ♡

ううううああああ…っ♡

熱いっ♡ 出てるっ♡

中出しびゅるるう…♡ つおお…っ♡

勢いっ♡ すげい…っ♡

奥にいっぱいっ♡ ぶちこまれるう…♡

ガキチンポのくせにっ♡

本気種付けっ♡ してくるうう…っ♡

ううああ…っ♡

はっ、はっ、はっ、はっ、ふっうう、ふううう…っ♡

ううう、はああ…♡

はあ、はあ、はあ…っ♡

んっうう…♡ はあ、っくう…♡

はー…♡ はー…♡ はーあ…♡」

ヨ「ふふ…♡

気持ちよかったか？ ボウヤ…♡

なら、次はまた私と——」

レ「もっと…♡

もっとしよう…♡

まだまだもっと、ボクのおチンポ、欲しい…♡

セックスしたいんだあ…♡

はあ、はあ…♡」

ヨ「…はは…っ♡

そうか…♡ なら、しばらくレイに、

ボウヤのことを任せるとしようか…♡

私は酒でも入れ直してくるか…♡

汗をかきすぎて、酔いが覚めてきたからな…♡

ではな、レイ、ボウヤ♡

二人でたっぷり、楽しむといい…♡

くくくく…♡」

● 第11章

レ「ふー…っ♡ ふー…っ♡ ふっうう…っ♡

するぞ…♡ もっと、セックス…♡

もっとボクのおチンポ、ガチガチチンポ…っ♡

お姉さんのおまんこに、いっぱいハメるからな…♡

ほら…っ♡

抱きしめてやる…♡

抱き着き対面座位交尾で…っ♡

おチンポ搾りい…っ♡

っあっあああ…っ♡

おチンポぐっぽり…♡

まんこに入って…っ♡ んっうう…っ♡

あんっ、ああんっ、うあんっ、ああんっ、うんっ、んっ、あんっ♡

あんっ、あああうああんっ、ああうああんっ♡

つくううう…っ♡

ああ、気持ちいい、気持ちいい…っ♡

チンポずぼずぼっ♡ じゅぽずぽばんぱんっ♡

気持ちいい…っ♡

チンポ好きっ♡ チンポっ♡

ボクのチンポっ♡ 大好きだぁ…っ♡

ああああうんっ、あんっ、あんっ、うんっ、うんっ♡

っおお…っ♡

おっぱい止まらない…っ♡

おチンポずりゆずりゆ突っ込まれてっ♡

母乳っ♡ いっぱい出ちゃう…♡

んっ、ああんっ、うんっ、あうんっ、んっ、あんっ♡

んっ、うんっ、んっ、つくう…っ♡

はっぁ、はっぁ…♡

ほら、ボク…♡

いつまでも、母乳、浴びっぱなしじゃあもったいないだろ…っ♡

飲め…っ♡ 飲んでくれ…っ♡

さっきまでと違って、ホントにおっぱい、出るんだから…っ♡

あたしのおっぱいちゅぱちゅぱ吸ってっ♡

ごくごく飲んでっ♡

おチンポもっと、勃起させるんだ…っ♡

っあああ…っ♡

そう♡ そうだ♡ おっぱいばくんってえ…っ♡

んっああ…っ♡

んっ、あああんっ、あんっ、んっ、うんっ♡

ああんっ、うあんっ、あああああ…っ♡

んっいいい…っ♡

出る出るっ♡ 出ちゃうっ♡

おっぱい吸われてっ♡

ミルクたっぷり止まらないっ♡ くううう…っ♡

んんんあ…っ♡ はっああん…っ♡

あんっ♡ んっあんっ♡ んううっあああ…っ♡ うっ♡ くっ♡

ボクの身体むぎゅって抱きしめてっ♡

おまんこばんぱんっ♡

メス汁たっぷりまんこでっ♡

年下チンポっ♡ じゅぷじゅぷばちゅばちゅっ…♡

気持ちいいのっ♡ 止まんないっ♡

ずっとぐちゅぐちゅっ♡

おまんこといっしょにっ、頭の中までっ♡

掻き回されるみたいでえ…っ♡

くうっあああ…っ♡

っあああああ…っ♡

ふうああっ♡ んっひいいいん…♡

んううああっあああっああ…♡

んっひい♡ ふううううう♡ くうあっ♡ くううう…っ♡

んいひひひ…っ♡ んっひいっ♡

うあああ…っ♡ んっひああっ♡ あっああっ、うううう…っ♡

あああああ…っ♡

対面座位でっ♡ ドスケベ腰振りっ♡

止まんないっ♡

こんなっ、恋人同士の交尾みたいになっ♡

本気のおチンポ搾りっ♡

やめられないっ♡

うっああああ…っ♡

ういいいいい…っ♡ いいっ♡ んっいい…♡

はっあああ…っ♡ 売っくうああっ♡ はっあああ…♡

違う、からあ…♡

私は、ボクみたいな、小さい、年下の男なんて…っ♡

好きじゃあないんだからなあ…♡

んっいいい…っ♡

おチンポは立派だが…っ♡

それだけえ…っ♡

こんなっ♡ んっいいいっ♡

めちゃくちや相性いいだけのっ♡

絶倫ガキチンポっ♡

持ってるだけで…♡

好きになんてっ♡ ならないんだからなあ…っ♡

んううっいいいっ♡ んひいんっ♡ はっああ…♡

ううううああっ♡ ううううああ…っ♡

っおおお…っ♡

でるでるでるでるう…っ♡

はっぁぁぁぁ…っ♡

ううぁぁ…っ♡

飲んでっ♡ 飲んでっ♡ もっとぐぐぐっ♡

いっぱい飲んでえっ♡

デカ乳にたっぷり母乳溜まってっ♡

ぱんっぱんに這っちゃってるから…っ♡

ボクのキンタマにザーメン溜まってるみたいになっ♡

おっぱいっ♡ 母乳でいっぱいだからぁ…♡

いっぱい飲んでっ♡

おっぱい空っぽになるまでっ♡

たっぷりちゅうちゅう…♡

んっううぁぁぁ…っ♡

んううぁっ♡ くうっう♡

んっいいっ♡ うっくうっ♡ んうううぁぁぁ…っ♡

はぁぁぁっ♡ んっいいいい…っ♡

っくうううん…っ♡

はっぁ、はっぁ…っ♡

で、出る…？ 精子、出るのか…♡

ああ、いいぞ…♡ 射精、しろお…♡

あたしの中につ♡ 熱々ザーメン♡ ぶぴゅうって出せえ…♡

同じ年頃のオスガキが♡

必死におチンポしごいて吐き出してるよう♡

青臭いザー汁…♡

あたしが特別につ♡ 中で♡ 受け止めてやってるんだ…♡

だから遠慮なく♡ いっぱい出せえ…♡

母乳ごくごく飲みながら♡ チンポ汁♡ どぶどぶ…♡

いっぱい出せ♡ いっぱい出せ出せ♡

射精しろ♡ 射精♡ 中出し♡

おまんこ種付けえ…♡ んっううう…♡

んううああ♡ うつくううあ♡ はっああん…♡

あっああん♡ ううああ♡ ふんいいい…♡

くうううう…♡

イクイクイク♡ イッグ♡ くううう…♡

んうあ♡ はっああ…♡

うっ♡ あっ、ううああ♡ んあああ…♡

イグっううっううっ…っ♡

んうああああああ…っ♡

んっうううっ♡ 熱いっ♡ あっついっ♡

ザーメンどっぶりっ♡ びゅぶゅぶゅ…っ♡

精子たっぷり濃厚オス汁う…♡

おまんこいっぱい、出ちやってるう…♡

っあああ…っ♡

うっ、くっ、ふっくう、うううう…っ♡

はっ、はっ、はっ、はっああ…♡

ふうっ♡ ふうっ♡ ふっうう…っ♡

うあ…っ♡

んう、あ…っ♡

な、に…？ まだ、したいって…♡

ううあっああああ…っ！？

んっいいっ♡ んうっいいいい…っ♡

チンポっ♡ ガキチンポっ♡

種付けプレスっ♡ んっああああ…っ♡

体重全部っ♡ おチンポにっ♡ 乗っかってえ…っ♡

はっあっあああ…っ♡

すごいっ♡ すごいっ♡

孕ませレイプっ♡ 種付け交尾っ♡

重たいチンポでっ♡ まんこっ♡ 犯されてえ…っ♡

んっいいっ♡ いいっ♡ んっひいっ♡ はっあああ…♡

っあああ…っ♡

んううう…っ♡ うっああっ♡ んっひい♡

あっああ…♡ あっああっ♡ んうあああ…♡

んっいいいい…っ♡

小さいのにっ♡ かったいチンポっ♡

押し込まれてえ…っ♡

まんこの入り口っ♡ ほじくられてえっ♡

こんなのよりっ♡ もっとおっきいチンポっ♡

ぶっといチンポに犯されたこともっ♡

いっぱいあるのに…っ♡

こんなガキチンポなんかでっ♡

本気で感じまくりでえ…っ♡

うううあっああ…っ♡

っうあっあああ…っ♡

だめだっ♡ だっめっ♡

本気で好きにっ♡ なっちゃってるっ♡

酒場で見つけたっ♡

遊びやすそうなオスガキい…♡

ちょこっと遊んでっ♡

まんこドハマリさせてっ♡

金でも貢がせてやろうと思ってたのに…っ♡

いつのっ、間にかあ…♡

っあああ…♡

あたしの方がっ♡ 本気にっ♡ ううっああ…っ♡

んくいいいい…っ♡

んあう、あう、あん、あんっ、んあっ、んあうっ…♡

っああっああ…っ♡

ガキチンポ気持ちいい…♡

ガキチンポレイプっ♡

子宮までっ、響くううう…っ♡

ううあっああ…っ♡

んあっ、あん、んくっ、んうっ…♡

あっ、あっ、あっ、あっ…♡

んっ、あん、んあ、あっく、んっく、いや♡

っああっ♡ イグイグっ♡

イググっ♡ まんこイグまんこイグっ♡

まんこっ♡ ボクのチンポっ♡

ベタ惚れしちゃってるっ♡

認めるっ♡ 好きっ♡ 大好きっ♡

ボクのことっ♡ チンポ興奮させるためのっ♡

言葉じゃない…っ♡

本心からっ♡ 大好きっ♡ 大好きっ♡

好きにっ♡ なっちゃったあ…♡

ああああ…っ♡

だから出してっ♡ おまんこ中出しっ♡

ボクのおチンポでまたおまんこいっぱいっ♡

孕ませ射精してえ…っ♡

いっぱい出してっ♡ たくさんどっぴゅっ♡

子宮っ♡ 子種汁いっぱいになるぐらいっ♡

強烈射精い…っ♡

っあっあああ…っ♡

うううあああ…っ♡

おっぱいじゅるじゅるうう…っ♡

いっぱいごくごくっ♡ ミルク飲まれてえ…っ♡

イック♡ イック♡

授乳種付けプレスでいっぎゅううう…っ♡

んいいいっ、んううういいいいっ♡

うっ、あっ、あっ、あっあっああ…っ♡

くうううあっああああ…っ♡

んいいいっ♡ ふううあっああ…っ♡

熱いっ♡ 射精っ♡ どくどくっ♡ びゅっぢゅううう…っ♡

うううっ♡ うっくうっ♡ んうううっ♡

はっああっあああ…っ♡

中出しどっくん…♡ ボクのキンタマ汁

…っ♡

中で受け止めるの、好き…っ♡

ふっ、ふっ、ふっ、ふうう…っ♡

っあっあああ…っ!？

いあ、ん、んうっ、んあ、んあう…♡

んっ、ああ、ああんっ、あんっ、いや、やん♡

またっ♡ まったっ♡

三連続っ♡ 交尾いい…っ♡

おチンポ抜かないでっ♡ そのままっ♡

どちゅどちゅっ♡

くうううあっあああ…っ♡

すごいっ♡ しゅごいっ♡

若いおチンポっ♡ 本気のセックスう…っ♡

うあっああああ…っ♡

あっ、あつい、んあ、ああん、あっ、あんっ♡

好き好きっ♡ 好きいっ♡ すっき♡

好きいいい…っ♡

だいしゅきっ♡ だいしゅきっ♡

抱き着いてっ♡ 離さないっ♡

離れないっ♡ 離したくないい…っ♡

うううあっあああ…っ♡

ひあ、あ、んあっ、ああっ、ううあっ…♡

んあ、んう、あん、うん、あん、あんっ♡

ん、んあ、はあ、あふ、ふあっ…♡

んっ、あっ、あう、んっ、んうっ、ひあ♡

ううあっあああ…っ♡

おまんこっ♡ 完全につ♡

ボクのもの…っ♡

年下のっ♡ 男の子っ♡

何人も食べてきたような年の子につ♡

負けてっ♡ おまんこメス女っ♡

なっちやったあ…♡

でもいいっ♡ おチンポ好きっ♡

ボクのおチンポ好きだからあ…っ♡

ううっあっあああ…っ♡

っああ、んあう、んっく、くあ…っ♡

はあっ、んんあ、つくあ…っ♡

ひい、あはあ、ううあっ…♡

うんっ♡ うんっ♡

わかってるっ♡ もうっ♡

他の男となんてセックスしないっ♡

ボクだけでいい…っ♡

お姉さんといっちできるのはあ…っ♡

かっこいいボクだけだよお…っ♡

んっううああっ♡ んっああっ♡

あっ、んっ、あっああっ、んいい…っ♡

好きっ♡ 好きっ♡ 好き好きっ♡

好きいいい…っ♡

ううっあああ…っ♡

大好き好きっ♡ 大好きっ♡ 大好きいいい…っ♡

くうあっああああ…っ♡

イグ♡ イグ♡ またイグっ♡連続アクメっ♡

っおお…っ♡

子宮っ♡ 迎えに行ってるっ♡

子宮っ♡ 赤ちゃん孕みに降りてきてっ♡

チンポとちゅっちゅうう…っ♡

ボクのおチンポっ♡ 奥っ♡

届いてるっ♡ 届いちゃってるうっ♡

っああああ…♡

ああ、ん、んふ、んあ、んう、あ、っああ…♡

あ、ああっ、ん、んふう、んっ、んあ、あん、んう…っ♡

んあ、うつふ、うん、あは、あんっ、あんっ、あんっ♡

ん、んあ、あん、ああ、あん、ああ、んっ♡

ああっ♡ そこっ♡ そこだっ♡

出してっ♡ そここがあたしのっ♡

赤ちゃんの部屋あ…♡

出してっ♡ 出してっ♡ 孕ませ射精っ♡

ホントの種付けびゆるびゆるお漏らしい…っ♡

んうううっ♡ っくううううっ♡

んううあっ、あっあああ…っ♡

イググ♡ イググ♡ イグイグっ♡

ううううああああ…っ♡

イック♡ イック♡ っあああっ♡ ひっぐううう…っ♡

おっぱい飲んでおつきくしたおチンポお…♡

おっぱい飲んで濃くなったザーメン…っ♡

お姉さんのことっ♡ 孕ませ射精い…っ♡

してっ♡ してっ♡ してえ…っ♡

ああっああああ…っ♡

イグイグイグイグっ♡

出る出る出る出るうっ♡

っあああっ、んっいいいっ♡

んうううっ♡ くうっあっああ…っ♡

んううあっああああ…っ♡

ううあっああああ…っ♡

っあああっ、んいいいいっ♡ うううっ♡

くあっあああ…っ♡

すっ、い…っ♡ すっすっする…っ♡

チンポ、ヤバすぎる…っ♡

こんなの…♡ 好きにならないメスなんていない…っ♡

とんでもない、男の子に…っ♡

出会っちゃったあ…♡ あっっああ…♡

はっあ、はっあ、はっあ、はああ…♡

ふうううう…♡

ふう、ふう、ふう…♡ んう…？

あは…♡

ああ、ヨルだろう…？ わかってる…♡

今からあたしが呼びに行く…♡

そしたら、交代…♡

次はあたしが酒を補充に行く番だ…♡

今度はヨルとも…♡ しっかり、楽しんでくれ…♡

あいつも、意外と、あたしみたい…♡

素直じゃあないからな…♡

ふふふふ…♡「

● 第12章

ヨ「ふふ…♡

レイから聞いたぞ♡

あいつとさんざんヤツた上に…私ともしたいんだってな♡

まったく…♡ 小さなボウヤが、

いつの間にそんな立派な言葉を吐くようになった？

だが、私はレイのように甘くはない♡

大言壮語した責任は、しっかり取ってもらう…♡

さあ…♡ ベッドに横になれ…♡

ボウヤも大好きな、おチンポ逆レイプ…♡

怖あいお姉さんが、杭打ちピストンで、

生意気なボウヤをお仕置きしてやる…っ♡

そら…っ♡ 一気に行くぞ…っ♡

おチンポずっぶり飲み込んで、ばちゅばちゅばちゅ…っ♡

後悔しても遅いからな…っ♡

んう…っ♡

んうう…っ♡

はっあ、ふっう、ふううう…っ♡

あああ…っ♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、んあん…っ♡

んあっ、あんっ、あっ、んあ、ああんっ♡

っはああ…っ♡

どうだ、ボウヤ…っ♡

まんこ、きつつきつに締め付けて、チンポ搾り…っ♡

チンポ犯されるのは厳しいだろう…っ♡

そんなに気持ちよさそうな顔をして…っ♡

レイと何を話したかは知らないが…っ♡

あいつと同じことになるとは思うなよ…っ♡

さっきまでと同じように…っ♡

ボウヤのチンポを使って、性処理セックス…っ♡

楽しませてもらうだけだ…っ♡

っああ…っ♡

はっああ…っ♡

待っている間に、母乳もすっかり溜まってしまったからな…っ♡

存分に、出し尽くさせてもらうぞ…っ♡

んっ、くっ、ふっうう、はっああ…っ♡

母乳、たっぷり溜まりすぎて…っ♡

おまんこピストンしていれば勝手に、はっああ…っ♡

おっぱいミルク、噴き出してしまうからなあ…っ♡

んっううん…っ♡

ああ…っ♡ 気持ちいい…っ♡

男のことなど考えずっ、一方的に腰を振るだけのセックス…っ♡

いや、もはやオナニーだなあ…っ♡

ガキチンポ、生デイルドにして…っ♡

おまんこいじりい…っ♡

ほどよい感触で、満足度も高い…っ♡

いい具合だあ…っ♡

んっうん…っ♡ はっ、ふっ、はっ、はあ…っ♡

ふふ…っ♡

どうした？ おっぱい飲みたいのか？

いいぞ♡ 飲ませてやる…っ♡

どうせいくらでも出てくるものだ…っ♡

遠慮なく、くれてやる…っ♡

んうあ…っ♡ ちゅうちゅう、たっぷり…っ♡

はあああ…っ♡

乳首を吸うの、上手だなあ…♡

レイのおっぱいもこうして吸っていたのか？

んっくう…っ♡

それで鍛えられたということか…っ♡

本当に、成長が早い…っ♡

っああ…っ♡

母乳いっぱい、出してしまう…っ♡

母乳噴き出し交尾っ♡ 気持ちいいぞお…っ♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん…っ♡

んっう、くっう…っ♡

それに、ボウヤのチンポ…っ♡

必死に私のおまんこ、抗って…っ♡

搾り上げようとしているの…っ♡

押し返して、きて…っ♡ くううう…っ♡

んっあっ、あっああ…っ♡

これはっ♡ うっく♡ 確かに…♡

レイぐらいの女だっ♡ 負けてしまうかもしれないな…っ♡

ガキチンポにはなかなかのっ♡ んっううあ…っ♡

いいチンポ…っ♡ して…っ♡

んうう…っ♡

んっ、うん、あんっ、あ、あっ、あんっ♡

ふっ、ふっ、ふっ、あっあああ…っ♡

ふふ…♡

そうか♡ もうイキそうか…っ♡

多少は抵抗したみたいだが、結局、私の勝ちだな…っ♡

いいぞ…っ♡ このまま、私の杭打ちピストンで、

ガキチンポ搾って…っ♡

キンタマザーメン吐き出させてやるからなあ…♡

ふっ、ふっ、ふっ、ふっ、くううう…っ♡

あっ♡ んっ♡ あっ♡ っあああ…っ♡

ほらっ♡ 出せっ♡ 出せ出せっ♡ 出せえっ♡

チンポイケっ♡ ガキチンポっ♡ 敗北射精っ♡

大人の年上お姉さんの逆レイプには勝てないって♡

くううう…っ♡

チンポにもう一度、刻みつけてやるぞお…っ♡

そらっ♡ そらっ♡ そうらっ♡

んっううう…っ♡

出せっ♡ イケっ♡ 出せっ♡ イケえ…っ♡

んっううう…っ♡

うっ、あっ、あっ、チンポっ♡ ビクビク…っ♡

まんこ、イク…っ♡

ううううう…っ♡

うううあっあああ…っ♡

んっ、っうううっ♡ おまんこっ♡ 熱いのっ♡

出されて…っ♡ くうううう…っ♡

はっあああ…っ♡ ふっう、はあ…っ♡

しま、った…♡ 最後に、油断した…っ♡

ボウヤのチンポなんか、イカされて…っ♡

んうぁ…っ♡ おっぱい、そんなに強く…っ♡

っぁぁ…っ♡

また出る♡ また出るっ♡ おっぱい出る…っ♡

くっううん…っ♡

ふっ、はっ、はぁ…っ♡

んう…っ♡

っふう、はぁ、はぁ…♡

はは…♡ ボウヤ…♡

私の杭打ちピストンを食らって、まだチンポ…♡

ここまで元気か…♡

そんなに私と、セックスしたいのか…♡

必死にぎゅうと抱き着いて…♡

対面座位か…♡ ふふふ…♡

いいだろう…っ♡

なら、付き合ってやる…っ♡

最後まで、ガキチンポ…♡

犯しまくってやる…っ♡

そうら…っ♡

ぱんぱんぱんぱん…っ♡

対面座位だろうと…っ♡

こちらからチンポ、ピストンしてやるのは変わらんぞ…っ♡

こうしていれば、ボウヤのチンポはイカされて、

ガキチンポザーメン、びゅーびゅー吐き出してしまうんだ…♡

こんなに簡単なことは――

んっうお…っ!？

あっ、くっ♡ チンポっ♡ 突き上げ…っ♡

ううああ…っ♡

ん、んあ、あん、ああ、あん、ああんっ♡

んふ、んっふ、ああ、ああ、ああん、んあん…♡

んっいいい…っ♡

んっうあっ、あっふっ、おっ、んっお、んうっ♡

っああああ…っ♡

待て…っ♡ チンポっ♡ んっあっ♡

おっぱいちゅぱちゅぱ吸いながらっ♡

顔っ♡ おっぱいに埋めて、抱き着きながらっ♡

突き上げ交尾っ♡

いいところっ♡ 当たって…っ♡

あっ、んっぁ、んうぁぁ…っ♡ はぁぁ…っ♡

くうううう…っ♡

さ、さっきまでっ♡ 私に一方的にっ♡

搾られているだけだったのに…っ♡

チンポで反撃…っ♡

この、勢いは…っ♡ はっぁぁぁ…っ♡

あっく、んううう…っ♡

んっひいっ、はぁぁ…っ♡

あっ、っはぁっ、んううあっ、はぁぁ…っ♡

っはぁっ、っはぁぁ…っ♡

ううぁぁぁ…っ♡

まんこっ、気持ちいい…っ♡

おっぱいの出かたもっ♡ さっきよりっ♡

強くう…っ♡

っぁぁぁ…っ♡

ううぁぁぁぁ…っ♡

んっくっ♡ ああああっ♡

チンポっ♡ こんなっ♡ ザコガキチンポにっ♡

私がっ♡ 本気で…っ♡

うううう…っ♡

今までっ♡ 好きだと言っていたのも全部っ♡

ボウヤを喜ばせるためのっ♡

でまかせだったはずなのに…っ♡

っあああ…っ♡

この突き上げチンポは…っ♡

身体っ、本当に…っ♡

おまんこ本気でっ♡ ボウヤのチンポ…っ♡

反応してえ…っ♡

っあっあああ…っ♡

ああああ…っ♡ んっくうあ♡ んっいい…♡

うううっ♡ くううう…っ♡

ふうううっ、んうあああ…っ♡

はあっ、はあっ、んっあ、あああ…っ♡

あああっ、ああああっ、っんんんっ♡

っああっ、っんっ、んんっあっんんいっ♡

っあああ…っ♡

違うっ♡ 違うっ♡ 好きなんかじゃ…っ♡

ボウヤのっ♡ チンポ…っ♡

年の割に、少々…っ♡

まんこっ♡ 感じさせてくるだけのっ♡

少年チンポお…っ♡

こんな年下チンポなんか…っ♡

百戦錬磨の私が…っ♡ うううああ…っ♡

いっっ、いっああっ、あっ、っんん…♡

んっううううっああっ、っあっ♡

んっいいいい…っ♡

す、き…っ♡ これえ…っ♡

うううう…っ♡

ちっ、ちがっ♡ 好きなんかじゃ…っ♡

ううあああ…っ♡

年下チンポっ♡ おまんこっ♡

負けてなんてえ…♡

っうっああああ…っ♡

うっ♡ うううっ♡ イック♡

まんこイクっ♡ またイクっ♡

おまんこイッちゃうっ♡ アクメっ♡

年下チンポアクメでっ♡

中出しザーメン、注がれるうう…っ♡

っおお…っ♡

あっ、あっ、っあああっ、んっ、ああああんっ♡

っあああ…っ♡

で、出るんだろう…♡ ボウヤも…っ♡

ああ、出せ…っ♡ 出せ、出せ…っ♡

それで終わりだ…っ♡

ボウヤのチンポに私は負けない…っ♡

くううう…っ♡

おっぱい美味しそうに、かわいい顔でっ♡

ごくごくちゅうちゅう飲んでるだけのっ♡

小さいオスに…っ♡

このヨル様が負けるわけがあ…っ♡

んっあああっんっ、んいっ、いっいっいっいっ…っ♡

イクイクっ♡ イック♡ だめっ♡ イックっ♡

あっ、くっ、あああっ♡

イックううう…っ♡

ああああっ、ああんっ、んんっ♡

ううあっあああ…っ♡

んううあっあああああ…っ♡

ううううああっ♡ 出るっ♡ 出るうっ♡

はっあああ…っ♡

子宮に熱々ザーメン注がれながらっ♡

母乳噴き出すの…っ♡

気持ちよすぎる…っ♡

うううううう…っ♡

はっ、はっ、はっ、あっあああ…っ♡

んい…っ♡

はあ、っはあ…♡

ぼ、ボウヤ…っ♡ し、しまった…♡

お、押し倒されて…っ♡

っおお…っ♡

あんんいっいつ、っあああああっんっ♡

んううっ、うああっ、あっ、あっん…っ♡

くううあっあああ…っ♡

種付けピストン…っ♡

おまんこっ、ずぼずぼお…っ♡

ううっああっ、ああああ…っ♡

待てっ♡ こんなっ♡ ここまでおチンポっ♡

されるなんて…っ♡

こ、これではレイの言うとおりに…っ♡

負ける…っ♡

ガキチンポに負けて…っ♡

ボウヤの…っ♡ メスに…っ♡

なってしまううう…っ♡

っああああ…っ♡

こんな年下なんか…っ♡ まんこマジ惚れ…っ♡

大人のっ♡ 年上のっ♡

お姉さんなの…っ♡ そんなのお…っ♡

ううあっああ…っ♡

んあっ、っんっ、んあっ、っんっ、んiiiiiiiiっいっいっ♡

っあっ、ああああ…っ♡

でもっ、でもお…っ♡

気持ちいい…っ♡ っあああ…っ♡

ボウヤのチンポっ♡ どっちゅどちゅ…っ♡

あああ…っ♡

おっぱい飲んでもらいながらっ♡

おまんこお…っ♡ うううう…っ♡

子宮っ♡ 降りて…っ♡

年下チンポにっ♡ みっともなくっ♡

吸い付いてるのにいい…っ♡

気持ちいい…っ♡ はっあああ…っ♡

んううああああ…っ♡

気持ちいいっ♡ 気持ちいいっ♡

好きっ♡ 好きっ♡ しゅきいい…っ♡

っああ…っ♡

んうあっ、ああああっ、んうううあっ♡

ああっ、はっあああ…っ♡

大人なの…っ♡ 年下チンポっ♡

マジ惚れするのっ♡ 恥ずかしくってえ…っ♡

強がってたけど…っ♡

もうっ、限界だ…っ♡

チンポ好きっ♡ ボウヤのチンポ…っ♡

ずっと前からっ♡ 好きだったあ…っ♡

気持ちいいっ♡ こんなチンポっ♡

他に知らないっ♡

このチンポにしてみらうの好きなんだっ♡

ホールド抑えられないっ♡

小さいボウヤの身体っ、ぎゅっって抱きしめてえ…っ♡

密着交尾っ♡ んうううう…っ♡

おっぱいもっ♡ たくさんっ♡

吸われてっ♡ 飲まれてえ…っ♡

ううああ…っ♡

んううああああ…っ♡

んいいいっ♡ んっひいいい…っ♡

あっ♡ うううっ♡ ボウヤっ♡

ボウヤあ…っ♡

好きっ♡ 好きっ♡ 好き好きっ♡

大好きいいい…っ♡

おおお…っ♡

ううああああ…っ♡

ああっ♡ 出してっ♡ 出していいぞっ♡

お姉さんのまんこっ♡

ボウヤだけのっ♡ ハメ穴だからな…っ♡

レイのもっ♡ 私のもっ♡ どっちでもお…っ♡

ボウヤの絶倫チンポぶちこむだけでっ♡

子宮まで甘々になるっ♡ 年上ザコまんこだからあ…っ♡

好きにしてくれっ♡

いっばいっ♡犯してっ♡

ザーメンっ♡ 注いでっ♡

子作り精液っ♡ いくらでもっ♡

うううあっああ…っ♡

あんっ、んっ、あああ…っ♡

ああんっ、あああんっ、あんっ、ああんっ、あつくう…っ♡

イクイクイクイクっ♡

っああああ…っ♡

んううあっああっあああ…っ♡

はっああっああああ…っ♡

んううあああっ♡ んっいいいい…っ♡

うううあっ♡ 出てっ♡ 出てるっ♡

どろどろ濃厚キンタマミルクう…っ♡

ボウヤ…っ♡ 好き…っ♡

好き、好き、大好き、大好き…っ♡

うううっ♡ くうううう…っ♡

はっあ、はっあ、はっあ、あっあああ…っ♡

ふー…っ♡ ふー…っ♡ ふううう…♡

あっはあ…♡「

● 第13章

レ「ふふ…♡

ずいぶんと盛り上がっているな、ヨル♡

外まで喘ぎ声が聞こえてきたぞ♡」

ヨ「レイか…♡

ああ…♡

お前の言うとおりだった…♡

素直になって正解だった…♡

ボウヤとの本気交尾…♡

最高に気持ちよかったよ…♡」

レ「さあ…♡

二人とも理解できたところで、

また三人仲良くお楽しみの時間だ…♡

ボク♡ 連続交尾でさすがに疲れたろう？

まだまだお姉さんたちの母乳、たんまり出るからな…♡

いっぱい飲んで、元気いっぱいになるんだぞ…♡」

ヨ「ほら、おっぱいどうぞ…♡

いっぱい飲んで、おチンポ、元気元気にするんだぞ…♡」

レ「んうあ…っ♡」

ヨ「あっあん…♡」

レ「ああ、ボク…♡

おっぱいちゅうちゅう、上手、上手う…♡」

ヨ「いっん、いっん…♡

たくさんちゅうちゅうできて、えらいえらい…♡」

レ「ふふ…♡

お疲れおチンポ、いやしてやるからな…♡」

ヨ「ほら…♡ おチンポ二人で、優しく包んで…♡

ゆっくりこきこき…♡」

レ「こうすれば、ボクのおチンポは回復するって、
もうわかってるからな…♡

またキンタマに、精子いっぱい溜め込むんだぞ…♡」

ヨ「私たちの栄養たっぷりの母乳を飲んで…♡
精液たっぷり、作るんだぞお…♡」

レ「はっぁ…♡ ふふふ…♡

おっと…♡

母乳がこぼれて、顔にかかってしまったな…♡」

ヨ「どれ、舐め取ってやろう…♡
大事なボウヤの顔だからな…♡

んうぁ…♡」

レ「気持ちいいか？

あったかぁい舌で、お顔、ぺろぺろ…♡」

ヨ「なら、いっぱい舐めてやろうか…♡

気持ちよくなるまで、何度でも…♡」

レ「ふふ…♡

気持ちよさそうでかわいい顔…♡

ああ、見ているだけでうれしくなる…♡」

ヨ「いっぱい舐めて、もっとその顔、見たくなるな…♡

ん…♡」

レ「おチンポもむくむく膨らんで…♡

元気になってきたみたいだな…♡

ありがとう、ボク…♡」

ヨ「さあ、もっとたくさん、元気いっぱいになってくれ…♡

まだまだ私たちと、遊びたいだろう？

ほら…♡ 母乳、たっぷり…♡」

レ「っはあ…♡

おチンポぴくぴくって…♡

ふふ、やっぱりか♡

おチンポ一気に元気になりすぎて、

また精液、漏れてきちゃいそうなんだろう？

まったく、仕方がない…♡」

ヨ「いつまでも元気いっぱい、

年下絶倫チンポ…♡

だあい好きだぞ…♡

だから、さあ…♡

ぴゅっぴゅしような…♡」

レ「出せ♡ 出せ♡ チンポイケ♡

大好きチンポ♡ ぴゅっぴゅぴゅ…♡」

ヨ「お姉さんたちの優しい手コキで、

ゆっくりお漏らし♡

精液とぶとぶ…♡ 出せ出せ♡ イケ、イケえ…♡」

レ「ぴゅっぴゅっぴゅ…♡ びゅるるう…♡」

ヨ「ぶっ♡ どっ♡ びゅるる♡ びゅっ♡…♡」

レ「お射精上手♡ ぴゅっぴゅ上手だぞお…♡

さすがのおチンポだなあ、ボク…♡」

ヨ「まだまだ出せるんだろう？

ボウヤは私たちの予想や期待を、

簡単に乗り越えてきてくれた…♡

今回だって、まだまだ、きっと…♡」

レ「今度はこっちだ…♡

ボクのお耳…♡」

ヨ「いっぱいぺろぺろ舐めながら…♡

おチンポしこしこ…♡」

レ「好き♡ 好っき♡

だあい好きだぞ♡ ボクう…♡」

ヨ「ほら、ほうら…♡

おチンポいいこ♡ おチンポいいこ♡

もっといっぱいしこいてほしいか？

いいぞ♡ そら…♡」

レ「もうここまで回復したんだな…♡

このままもう一度ずつ、

おチンポハメても問題なさそうだ…♡」

ヨ「さすが私たちのボウヤだ…♡

かっこよすぎて、ああ…っ♡

またおっぱい、溢れちゃう…♡」

レ「ほら、飲んでくれ…♡

いっぱい飲んで…♡

爆乳ミルク♡ ボクのために出てくる母乳♡

いっぱいちゅっちゅう…♡」

ヨ「さっき出した分の精液…♡

母乳ごくごく飲んでて、すぐに回復…♡

さらにたっぷりごっくんすれば、

さらにキンタマ、みっちみちに精液、

詰まり初める…♡

優秀タマタマ、愛してるぞ…♡」

レ「ほら♡ こっちもマッサージしてやる♡

丸々キンタマ♡ にぎにぎ、ぎゅっぎゅ…♡

精子いっぱい、作ってくれ…♡」

ヨ「また私たちの中に、どっぷりどくどく♡

中出しどっぴゅん♡ するためのザーメン…♡

孕ませチンポ汁♡ いっぱい、いっぱい♡」

レ「キンタマ熱くなってきた…♡

あたしたちとの濃厚交尾♡ またしたくなってきたんだな…♡

おチンポこんなにピクピク震わせて…♡

ああ、かわいい…♡ かわいくて、かっこいい…♡」

ヨ「中出し欲求高まってきたな…♡

今すぐ私たちに覆い被さって、ばちゅばちゅばん♡

おまんこらぶらぶレイプ♡ したいんだろう？」

レ「いいぞ…♡ させてやる…♡

あたしたちもまた、ボクのおチンポで犯されたい…♡

堕ちきつてとろけきった子宮に…♡

ボクの優秀チンポ汁♡ 注がれたい…♡」

ヨ「だけども、一旦ぴゅっぴゅしちゃおうな…♡

おチンポ興奮高まりすぎて、

このままおまんこにゅっぷんしたら、

あつという間に暴発しちゃいそうだからな…♡」

レ「出せ…♡

出してくれ…♡

精液ぴゅっぴゅ♡ おチンポぴゅっぴゅ♡」

ヨ「チンポイケ♡ チンポイケ♡

出せ、イケ♡ 出せ、イケ…♡」

レ「おチンポどうぞ♡ おチンポどうぞ…♡♡」

ヨ「おチンポイクイク♡ おチンポイクう…♡」

レ「びゅるるう…♡ びゅっぶう…♡

びゅ♡♡ びゅ♡♡ ぶっびゅう…♡♡」

ヨ「びゅっ、びゅっ、びゅっ、びゅう…♡

ぶっく♡♡ ぶっく♡♡ ぶくぶくぶくう…♡♡」

レ「いっぱい出たな…♡♡

お手々、どろどろだ…♡♡」

ヨ「だけどおチンポはまだ元気…♡

私たちの子宮にザーメンぶちこみたくなって、

うずうずしてる…♡♡」

レ「ああ、しょう…♡♡

いっぱいえっちしよう…♡

らぶらぶ交尾、たっくさんしよう…♡

朝まですっと…♡

繋がってような…♡

ふふふふ…♡「♡」

● 第14章

レ「ほら、行くぞ…♡

ボクの大好きな、おチンポずぼずぼ♡

杭打ちピストン…♡

だが、今度は逆レイプじゃない…♡

愛情たっぷり籠もったらぶらぶら杭打ち騎乗位だ…♡

母乳もいっぱい飲ませてやるから…♡

あたしの愛情しっかり受け取って…♡

かっこいいおチンポ射精、いっぱいするんだぞ…♡」

ヨ「ほら…♡ お姉さんが膝枕、していてやるからな…♡

おっぱいぐくぐく♡

いっぱい飲んで、おチンポ元気元気になるうな…♡」

レ「行くぞ…♡

んっう…っ♡

んうあああ…っ♡

はっあ、んうんっ、くううん…っ♡

あはあ…っ♡

あんっ、ああんっ、うあんっ、ああんっ、うんっ、んっ、あんっ♡

あんっ、あああうああんっ、ああうああんっ♡

はっあああ…っ♡

ああ、おチンポ気持ちいい…っ♡

子宮っ、また降りてきて…っ♡

奥でおチンポっ♡ ちゅうちゅうってっ♡

おチンポキスう…っ♡

はっあああ…っ♡

んっ、あっ、やっあっ♡

んうあああ…っ♡「♡

ヨ「よしよし、よしよし…♡

ほら、おっぱいちゅちゅちゅっ♡ おっぱいへへへへ♡

おっぱい美味しいなあ♡

たくさん母乳、飲んでいいからなあ…♡

ボウヤのためにたっぷり出るから…♡

何度だって、ほら…っ♡

たくさん、びゅっびゅう…♡ くうっうん…♡

はっ、ふっ、はっああ…♡

美味しいかあ？ ボウヤ…♡

ああ、ありがとう♡

いっぱい飲んで、大きくなるんだぞお…♡」

レ「うああんっ、ああうあんっ、ああんっ、ううん…っ♡

ああんっ、んっ、うあんっ、あんっ、んっ、うんっ♡

んっ、ふっ、んっくっ♡ あああ…っ♡

ほら、ボク…♡

あたしのおっぱいもっ、んっああ…っ♡

おっぱいちゅうちゅう飲まれながらっ♡

らぶらぶピストン…っ♡

すっぐい、いい…っ♡

らぶらぶセックスっ♡ 本気交尾っ♡

んううああ…っ♡

好きっ♡ 好きっ♡ てっ♡

おチンポ相手に本気になってっ♡

デカケツ叩きつけえ…っ♡

おチンポ逆レイプするより何倍もっ♡

おまんこ感じるっ♡ おっぱいもっ♡

気持ちいいっ♡

んっ、あっ、はっあああ…っ♡

んっ、ああんっ、うんっ、あうんっ、んっ、あんっ♡

んっ、うんっ、んっ、つくう…っ♡

んっ、ああうあんっ、あんっ、んっ、うんっ♡

ああんっ、うあんっ、ああうああうあ…っ♡

ああっ♡ 気持ちいい…っ♡

気持ちよすぎる…っ♡

最高だあ…っ♡

んっ♡ あっ、んっくっ、んっうん…っ♡

うっ、ううっ、はっあああ…っ♡
「♡」

ヨ「ふふふ…♡

ほら、ボウヤ…♡

お口あ〜んだ…♡

おっぱいだけじゃあなく、こっちも飲んでくれ…♡

私の唾液…♡

甘くて美味しい、とろっとろのお汁…♡

お口の中で、母乳とミックスさせて飲むと、最高だぞ…♡

ほら、あ〜ん…♡

っはあ…♡

ほら、お口くちゅくちゅ…♡

私の唾液を口いっぱいに拡げながらあ…♡

おっぱい、どうぞお…♡

んっうん…♡

はっああん…♡

どう、だ…♡ 美味しいだろう…♡

私の母乳と唾液のミックスジュース…♡

美味しくてえ…♡

おチンポ気持ちいいだろう…っ♡「♡」

レ「んっうん…っ♡

おチンポびくびくっ♡

中でいっぱいっ♡ 膨らんでえ…っ♡

あたしのおまんこっ♡

いっぱいっ♡ かきまぜっ♡

また好きになるっ♡

こんなおチンポっ♡ いっぱいしてもらったらっ♡

どんどん好きになるっ♡

あっ、んうああっ♡

おチンポ好きっ♡ 年下チンポ大好きっ♡

ボクのおチンポっ♡ 何よりもお…っ♡

ううっあっああ…っ♡

あああ…っ♡ おまんこきゅんきゅん止まらない…っ♡

ふっ♡ ふっ♡ ううっ♡ くうう…っ♡

キツキツまんこでぐぶぐぶ騎乗位っ♡

杭打ちご奉仕セックスなの…っ♡

またっ♡ あたしの方がっ♡

おまんこアクメっ♡ しちやいそうでえ…っ♡

はっああ…♡

ごめんっ♡ ごめんなっ♡

許してくれえ…っ♡

ボクのこと好きすぎてっ♡

おまんこザコザコのお姉さんのことっ♡

許してえ…っ♡ っああ…っ♡」

ヨ「んっう…♡

出ちやいそうか…♡

おチンポイクイクするんだな♡

ああ、いいぞ♡ 出せ、出せ…♡

レイのお腹に熱々ザーメン、また、たっぷりプレゼント…♡

今はもう、ボウヤだけが使える、

気持ちいい孕ませおまんこ穴だからな…♡

ほら、おっぱい飲んで、おチンポ最後まで勃起させて…♡

キンタマの中身、少しでも濃厚にして…♡

最高の孕ませザーメン、幸せお射精しちやおうなあ…♡

ほうら…♡

お口あぐん…♡

っはあ…♡ んう…っ♡

甘々母乳ミックスジュース、ごっくんしてえ…♡

おチンポ強く、かっこよく、たくましく…♡」

レ「んんんあ…っ♡ はっああん…♡

あんっ♡ んっあんっ♡ んうっああ…♡ うっ♡ くっ♡

イック♡ イック♡ んいっくっ♡

ううあっあああ…っ♡

ふうああっ♡ んっひいいいん…♡

んううああっあああ…♡

出してっ♡ 出してっ♡

熱々チンポ汁っ♡ おまんこたくさん…っ♡

おチンポちゅっちゅ♡

子宮にぎゅゝってくっついてるおチンポからっ♡

ボクの真っ白ザーメン、いっぱい出してえ…っ♡

あっ、んっ、ああっ、んううああ…っ♡

イクイクイクイクっ♡

好きっ♡ 大好きっ♡ イックっ♡

はっああああ…っ♡

んっ、あっ、やっ、んうあっあああ…っ♡

んっううううあ…っ♡

んっううんうあああ…っ♡

あっああっ♡ 出てるっ♡ 射精っ♡

ザーメンびゅるるう…っ♡

ふっああああ…っ♡

んくあっ♡ っあああ…っ♡

おまんこっ♡ ぐくぐく…っ♡

精液飲んで…♡ 子宮っ♡ うれしそうにっ♡

ボクのザーメン…っ♡ 孕ませミルクう…っ♡

ボクがおっぱい飲んでくれるみたいに、んうあ…っ♡

ザー汁、美味しそうに…っ♡

はっ、はっ、はっ、あっあああ…っ♡

ふっう、ふっう、ふっう、ふうう…っ♡

んうあ…っ♡

はあ、ふう、はあ、はああ…♡」

ヨ「ふふふ…♡

さあ、ボウヤ…♡ また私にも、

ザーメンいっぱい、種付けしてくれるよな…♡

かっこいいボウヤと…♡ 愛情たっぷり、本気交尾…♡

楽しみだ…♡

んっう…っ♡

っあああっあああ…っ♡

んっ、ふっ、ふっううっ♡

おチンポ、びんっびん…♡

あああ、おまんこ、うれし泣き…♡

愛液だらだら、止まらない…っ♡

んうああっ♡ うっあっあああ♡ んううああっ♡

んっひい♡ ふううううう♡ くうあっ♡ くううう…っ♡

んううあああ…っ♡

んっ、うんっ♡ やっあっ♡ はあん…っ♡

ピストン気持ちいい♡

オスチンポっ♡ ぱっちゅんぱっちゅん…っ♡

子宮に届くっ♡ 杭打ちピストン…っ♡

デカ尻叩きつけっ♡ 好き好き交尾い…っ♡

んうああああ…っ♡」

レ「ほら、ボク…♡

おっぱいどうぞお…♡

ヨルの本気ピストン、受け止めるには…♡

少しでもおチンポ、大きくしないとだもんな…♡

ほら、ちゅうちゅうどうぞお…♡

っああん…っ♡

ああ…♡ 幸せえ…♡

おっぱいごくごく飲んでもらうのっ♡

幸せすぎるっ♡

おっぱいじゅるじゅるっ♡ 必死にしゃぶりつくボクがっ♡

かわいくてっ♡ 愛おしくって…っ♡

なのにつ♡ ぱごばごおチンポ、かっこよくって…♡

もう何もかも大好きだ…っ♡

大好き止まらない…っ♡

好きが溢れて…っ♡

母乳もお…っ♡

んううあああ…っ♡」

ヨ「ういいいい…っ♡ いっ♡ んっいい…♡

はっあああ…っ♡ うっくうああっ♡ はっあああ…♡

ああ、ボウヤ…♡

ボウヤのおチンポっ♡

心も体もっ♡ 大好きすぎてえ…♡

子宮がどんどん甘えてるっ♡

うんと年下のかっこいいオスにっ♡

お姉さんまんこっ♡ メスになってっ♡

好き好き大好きっ♡

愛情溢れてっ♡ いっぱいっ♡ 幸せえ…♡

うううん…っ♡

んうういいいっ♡ んひいんっ♡ はっああ…♡

ああっ、ボウヤあっ♡

いっぱいしようなっ♡

今日だけじゃないっ♡ これからもっ♡

もっといっぱい…っ♡

明日もっ♡ 明後日も…っ♡

これからずっとお…っ♡

お姉さんたちとっ♡ らぶらぶハメハメえ…♡

ううん…っ♡

幸せな毎日想像しただけで、また、おっぱい…っ♡

はっああ…っ♡「♡」

レ「あたしもそれがいい…♡

今日だけの関係なんて絶対イヤだ…♡

ずっといっしょだ…♡

三人いっしょ…♡ ずうっといっしょお…♡

約束だからな…♡ もう決まったからな…♡

ほら、約束のちゅー…♡

あたしの唾液、甘い唾液、いっぱい飲んでえ…♡

はっああ…っ♡

母乳といっしょに、美味しく、ごっくん…♡

んっうん♡ くうう…っ♡

うん♡ うん♡

愛情たんまり入ったおっぱいミルク、いっぱい飲んで…♡

おチンポもキンタマもっ♡

お姉さんたちを喜ばせるためにっ♡

何度だって、元気いっぱいにい…♡」♡

ヨ「んうううああっ♡ うっくううあっ♡ はっああん…♡

あっああんっ♡ ううあああっ♡ ふんいいい…♡

あああ…っ♡ 来たっ♡ 来ちゃうっ♡

おまんこアクメ…っ♡ はっああ…っ♡

嫌なのに…っ♡

もっとボウヤと楽しみたいのにっ♡

おまんこイキそ…っ♡ うううあっ♡

んっううん…♡

おっぱい溢れてっ♡ おまんこイクのっ♡

我慢できないっ♡ だっめっ♡ だめえ…♡

んっうう…っ♡

ボウヤも、出る…？

ああ、ありがとう…♡

私のために、出してくれるんだな…♡

うん、うん♡ 出して…♡ いっぱい…っ♡

お姉さんの子宮に、びゅるびゅるいっぱい…♡

おまんこ溢れるまで、精液どんどん…っ♡

出してくれえ…っ♡

っああああ…っ♡

レ「ほらボク…♡

お口あーん…っ♡

ふふふ…♡

またたっぷり出すんだぞ…♡

お姉さんたち、孕め♡ 孕め♡ って…♡

まだそんな年なのに、パパになっちゃうぐらい、

強烈な精液…♡

いっぱい子宮に出すんだぞお…♡

あたしたちは大歓迎だからな♡

ボクの赤ちゃんなら、いくらでも…♡

はあい、はあい…♡

だから出すんだぞお…♡

いっぱい出る出る…♡

おチンポイクイクう…♡

おっぱいたくさんごくごく飲んで…♡

年上お姉さん、メロメロにしたおチンポぴゅっぴゅう…♡

中出したくさん、ザーメンどっくん…♡

気持ちよくなろうなあ…♡」

ヨ「んあっ、あん、んくっ、んうっ…♡

出してっ♡ 出してっ♡ おチンポイツてえっ♡

好きっ♡ 好きっ♡ 好きっ♡ 好きいいい…っ♡

あっ、あっ、あっ、あっ…♡

大好きっ♡ 大好きっ♡ んうああっ♡

イック♡ イックっ♡

大好きすぎてイクっ♡ おまんこイックうっ♡

子宮でむぎゅって♡ おチンポちゅって吸い付きながら♡
ザーメン子種汁欲しがりながら♡

おねだりアクメえ…♡

ううううああ…♡

イクイクイク♡ んいっく♡

くうううう…♡

んっ、あっ、やっあっ、はっああ…♡

んううあっあああああ…♡

はああっあああん…♡

っああっ♡ 中出し♡ いっぱい♡

子宮びちゃびちゃ♡ 奥まで注がれてえ…♡

っおお…♡

んっふっ♡ んっうう…♡

幸せアクメ♡ 止まんない…♡

ボウヤがおチンポどつくんってする度に♡

私も♡ おまんこイッてえ…♡

はっ、んっ、はっあんっ、んあああん…♡

ああっ♡ 好きっ♡ 好きっ♡ 好きいい…♡

ふうっ、ふっ、ふっうっ、くうううっ…っ♡

はぁ、はぁ、はぁぁぁ…♡

ああ、ボウヤ…♡

愛してる…ボウヤぁ…♡」

レ「大好き…♡ だぁい好き…♡

これからはずっと…♡♡

いっしょだぞ…♡」

ヨ「お姉さんたちと、ずっと、ずっととお…♡

ふふふふふ…♡」

● 第15章

レ「ほうら、ボク…♡

お疲れさまのおっぱいだぞ…♡

お顔にむぎゅ…♡

いっぱいばふばふ♡

押し当ててやるからな…♡」

ヨ「柔らかおっぱいの感触、楽しみながら…♡

母乳もまた好きなだけ、飲んでいいからな…♡」

レ「んう…♡ ふふふ…♡

よしよし、よしよし…♡

かわいいなあ、ボク…♡

おチンポはあんなにかっこいいのに…♡

おっぱいを美味しそうに啜ってるこの姿は、

見ているだけで幸せになる…♡」

ヨ「っあん…♡

二人のおっぱい、交互にちゅっちゅ…♡

上手だなあ…♡

よしよし、よしよし…♡

ボウヤのために、どれだけだって出してやるぞ…♡

お腹いっぱいになるまで、ごくごくしような…♡

ふふふ…♡」

レ「今日はすごい一日だった…♡

ただボクのこと、からかってやろうとしただけなのに…♡

あれからたった数時間でこんなことになるとはな…♡」

ヨ「ああ…♡

他の男や男の子と同じように、ひと晩だけの関係に、

するつもりだったのにな…♡

なのに今は…♡

ずっとボウヤのそばにいたいと思ってる…♡」

レ「ずっとボクのそばにいて…♡

守ってやりたい…♡

何かしてあげたい…♡

おチンポいいこいいこ、してあげたいって…♡

思ってるよ…♡」

ヨ「ああ、そうだ…♡

それでいいじゃないか…♡

なあ、ボウヤ…♡

ボウヤはそもそも、旅の仲間を探していたんだろう？

なら、私たちがその通りにすればいい…♡

ボウヤの旅の仲間になってやろう…♡

いや、ならせてくれ…♡」

レ「そうだな…♡

ここはいろんな男が来るからと拠点にしていたが…♡

もう、そんな必要はないわけだからな…♡

今からあたしたちは、ボウヤの仲間…♡

三人でパーティを組もうじゃないか…♡

あたしたちの剣の腕前は相当だぞ？

損はないはずだ…♡」

ヨ「きっと、ボウヤの役に立ってみせるよ…♡

いいだろう？

…ふふ♡ ああ、それなら決まりだ…♡」

レ「ありがとう、ボク…♡

では…♡

仲間になった誓いのキス…♡

お姉さんの涎、たっぷり飲ませてあげるから…♡

また、母乳ミックスジュース…♡

いっぱいごっくんするんだぞお…♡

んうん…♡

っはあ…♡」

ヨ「ごっちともだ…♡

年上お姉さんの美味しい唾液、たっぷりごっくんしていいぞお…♡

ほうら…♡ おっぱいちゅうちゅうしてえ…♡

んうん…♡

そのままごっくん…♡

愛情たっぷりミックス母乳…♡

美味しいなあ…♡ ふふふ…♡」

レ「これからは毎日、こんなこと、出来るからな…♡

なにせいっしょに旅をするんだ…♡

寝る時も起きる時も、三人いっしょだ…♡」

ヨ「夜は毎日、可能な限り宿に泊まろうな…♡

お金のこととは心配するな♡

私たちがたんまり持っている…♡

いい宿に、毎晩泊まって…♡

そこで毎晩、えっちしような…♡」

レ「ボクほどの絶倫チンポ…♡

一日だって搾ってやらないと、かわいそうだからな…♡

毎晩朝までえっちしよう…♡

この、母乳が出る魔法だって、ボクが望めば、毎日使っていていいぞ…♡

好きなんだろう？ ほら…♡

こんなに強く…♡ んうぁ…♡

おっぱいちゅうちゅう、するんだもんな…♡

ふふ…♡♡」

ヨ「私たちも、気持ちと同じだ…♡

毎日ボウヤにおっぱい飲んでもらいたい…♡

毎日おまんこに中出しザーメン注いで欲しい…♡

ボウヤとセックスするの、今まで生きてきた中で、

一番気持ちいいんだ…♡

これ以上が想像できない…♡

身体の相性どころじゃない…♡

まるで、運命の相手のように…♡

んうぁ…っ♡ あは…っ♡

ボウヤもうれしいんだな…♡

また強く、おっぱい吸って…♡」

レ「ありがとう、ボク…♡

大好きだぞ…♡ だぁい好き…♡

ほうら、また、涎たっぷりペロチュー…♡

してあげる…♡

っふう…♡

好き、好き、だぁい好き…♡」

ヨ「私も、もう一度お…♡

愛してるぞ…♡ ボウヤ…♡

大好き…♡

世界の果てまでたどり着いても、離れないからな…♡」

レ「ああ、これからが楽しみだ…♡

毎日ボクと、楽しく旅が出来るんだ…♡」

ヨ「冒険者をやっていて、これほどワクワクするのも始めてだ…♡

よろしく頼むよ…♡

ずっと、ずっと…♡ 永遠に…♡」

レ「お姉さんたちと、楽しい毎日…♡

過ごそうな…♡

ふふふふふふ…♡ チュッ♡」

ヨ「お姉さんたちと、楽しい毎日…♡

過ごそうな…♡

ふふふふふふ…♡ チュッ♡」

● 第16章

◆ ①

レ「おはよう…♡ ボク…♡

ようやく起きたか…♡

起きるの、待ってたんだぞ…♡

ああ…♡ 待ちかねていた…♡

ボク的笑顔を見ていたら…♡

身体が熱くなってしまったからな…♡

ボクのおチンポも…♡ ほうら…♡

こんなに熱くなっていることだし…♡

朝勃ちおチンポ…♡

あたしが抜き抜きしてやろう…♡

さあ…♡ まずはおっぱい、ちゅうちゅう吸おうな…♡

んうぁ…♡ あぁ…♡

おっぱいちゅっちゅ…♡ 上手だぞお…♡

赤ちゃんみたいに幸せそうな顔で、乳首、啜えて…♡

本当に、かわいいかわいい、赤ちゃんでちゅねえ…♡

よしよし、よしよし…♡

ほうら…♡ 勃起しちゃった、赤ちゃんおチンポ…♡

いっぱいいいいいいこ、してあげまぢゅよお…♡

しこしこしゅっしゅう…♡

おチンポごしごおし…♡

おチンポあつつあつでちゅねえ…♡

おっぱい吸って…♡ ごくごく飲んで…♡

幸せ成分たっぷりで…♡

おチンポたくさんバッキバキい…♡

かわいい赤ちゃんなのにい…♡

おチンポはこんなにかっこいい…♡

たくましいおチンポでちゅねえ…♡

お姉さんは、この年下勃起おチンポが、だあい好きなんでちゅよお…♡

見ているだけで…♡

触っているだけで…♡

こうしてしこしこしてあげてるだけでえ…♡

おまんこあつつくなっちゃうぐらい…♡

だあい好きなんでちゅよお…♡

ふふふ…♡

いいこ♡ いいこ♡ おチンポいいこお…♡

よしよし、よしよおし…♡

おチンポきもちいいでちゅねえ…♡

おっぱいちゅうちゅう吸いながらあ、

かっこいい朝勃ちおチンポ、しこしここすってもらうの…♡

最高の朝でちゅねえ…♡

お姉さんもうれしいでちゅよお…♡

ボクにいっぱい喜んでもらえて、最高にうれいでちゅ…♡

おっぱいちゅぱちゅぱ喜んでもらえて…♡

こんなにおチンポ、大きくしてもらえたらあ…♡

うれしくって、幸せでえ…♡

おまんこ熱くなってきちやいまちゅよお…♡

ボクのおチンポ、おまんこずっぷり、啜え込んでえ…♡

ぱこぱこばんばん…♡

いっぱい何度も腰振り…♡

ボクの方からしてもらうのもお…♡

お姉さんの方からしてあげるのも、だあい好き…♡

どっちでも、おまんこいっぱい幸せでえ…♡

いっぱいイクイクしちゃうんでちゅよお…♡

ボクのおチンポでイカされるのが、

とっても幸せでえ…♡

おまんこ中出しびゅーびゅーしてもらうのがあ…♡

毎日楽しみなんでちゅよお…♡

だから、ボクう…♡

お姉さんも大好きな、熱々精子い…♡

まずはこのまま、お手々の中に、

びゅーしちゃいまちようねえ…♡

おっぱいたくさん飲みながら、おチンポぴゅっぴゅう…♡

ほかほかザー汁、どびゅるう、びゅびゅるう…♡

お姉さんのお手々の中にだしてくだちゃあい…♡

ほうら、ほうら…♡

いいでちゅよお…♡

おっぱいちゅうちゅ吸いながらあ…♡

おチンポびゅっびゅう…♡

はあい、はあい、どうぞ、どうぞお…♡

おチンポどうぞお…♡

おチンポイクイク♡ おチンポイックう…♡

はい、はい、はあい…♡

お射精どうぞお…♡

びゅっびゅっびゅっびゅうう…♡

びゅー、びゅー、びゅーう…♡

ふふふふ…♡

いっぱい出ましたねえ…♡

お姉さんのお手々まんこ♡ 気持ちよかったでちゅかあ…♡

それなら次は、本物本番おまんこも…♡

楽しんじやいまちようか…♡

ね、ポ・ク…♡ んふふふ…♡「♡」



ヨ「んう…？ ふふ…♡

もう起きてしまったのか…♡

おはよう、ボウヤ♡

まだまだ寝ていてよかったんだが…♡

ああ…♡

まあ、時間的にはもう起きる時間だが…♡

こんな間近で、すーすー寝ているボウヤの寝顔を見ると…♡

すっごく幸せでなあ…♡

まだ見ていたかったんだが…♡

起きてしまったんなら仕方がない…♡

もう一方の幸せの方…♡ いただくとするか…♡

ほら、ボウヤ…♡

おっぱい、吸っていいぞ…♡

さっきから、朝勃ちチンポが私に当たっていてな…♡

すぐにでも襲ってやりたかったんだが、

それでは起こしてしまうからと、我慢していて…♡

おかげで我慢の限界だ…♡

さあ、おっぱい吸って…♡

朝勃ちチンポ、もっと大きくするんだ…♡

私がしこしこいっぱいしこいて…♡

おチンポ気持ちよくしてあげまちゅからねえ…♡

ほうら、しこしこ、しこしこ…♡

おチンポよしよし、よしよおし…♡

ふふふ♡ おっぱいちゅうちゅ♡

何度飲んでも美味しそうにしゃぶりついて…♡

ああ…♡ おっぱい啞えてるその顔…♡

寝顔以上にかわいいでちゅねえ…♡

かわいすぎて、おまんこきゅんきゅんしちゃいまちゅ…♡

年上お姉さんまんこが、年下のボウヤの顔を見ているだけで、

発情しっぱなしになって…♡

しこしこいっぱいしてあげたくなっちゃいまちゅ…♡

朝勃ちおチンポガッチガチでえ…♡

精液どんどん昇ってきてまちゅねえ…♡

お姉さんのお手々の中で、むっくむくう…♡

どろどろ熱々ザーメン出したくってたまらない…♡

早くおちんちんイクイクしたあいつて…♡

いっぱい震えてえ…♡

いいでちゅよお…♡ いつでもイカせてあげまちゅからねえ…♡

朝でも夜でも…♡ ボウヤが望めば望むだけ、

いつでもどこでも…♡

おチンポイライラ我慢できなくなったら、おまんこぱんぱん…♡

おチンポむずむずしちゃった側から、おしゃぶりじゅるじゅるう…♡

朝勃ちおチンポガチガチで、朝からザーメン出したくって、

仕方がなあいつて時もお…♡

おっぱいちゅぱちゅぱらぶらぶ手コキで、

ずっしりキンタマ、すっきりさせてあげまちゅからねえ…♡

私はそれは大好きなんでちゅ…♡

大好きなボウヤのおチンポ、抜き抜きしてあげるのが、

だあい好きなんでちゅよお…♡

ほうら、ほうら♡　ほうら、ほうらあ…♡

おチンポびくびく止まりまちえんねえ…♡

おチンポイクイクしちやいそうでちゅねえ…♡

いいでちゅよお…♡

どうぞ、どうぞお…♡

おチンポイクイクう…♡

おチンポどっぴゅう…♡

いっぱいいちこちこしごいてもらってえ…♡

熱々ザーメン出しまちようねえ…♡

どうぞ、どうぞ♡　はい、はい、はあい…♡

おチンポびゅるるう…♡

びゅるびゅるびゅっぷううう…♡

どうぞお…♡

びゅっ、びゅっ、びゅっ、びゅううう…♡

どっぴゅう…♡　びゅるるるう…♡

熱々ザーメン、どっぴゅっぴゅう…♡

気持ちいいでちゅねえ…♡

おチンポザー汁たっぷり出てまちゅよお…♡

おっぱい吸いながら、おチンポイクイク…♡

キンタマびくびく、おチンポお漏らし…♡

気持ちいいでちゅねえ…♡

ふふふふふ…♡

はあい、お疲れさまでちたあ…♡

朝から元気いっぱい、よかったでちゅねえ♡

なら…♡

今度はお姉さんのことも…♡

いっぱい気持ちよくしてくれまちゅよね…♡

おまんこたっぷり…♡

中出しどっぶん…♡

お願いしまちゅねえ…♡ んふふふふ…♡「♡」

● 第17章

◆ ①

レ「起きろ。おい、起きろ…っ。

何をしてるんだ？

いつまで寝ているつもりだ、まったく…

このあたしに目覚めを任されているというだけでも、

相当な幸福だというのに…。

あまつさえ、それを無視して寝ぼすけか♡

贅沢なやつめ…♡

今日はあたしといっしょに仕事の約束だろう？

すっぽかすなんて…許さないんだからな♡

思い出したか？

なら、とっとと起きろ♡

今夜の酒のためにも、しっかり働くぞ♡

ふふふふふ…♡ チュッ♡「

◆
②

ヨ「ほうら、ボウヤ…♡

そろそろ起きる時間だぞ…♡

ふふ、やっと目を覚ましたか…♡

さすがにまだまだ小さいなあ♡ お寝坊さんめ…♡

何？ そんなことはないかと？

なら、さっさと起きて、仕事の準備をしたらどうだ？

それとも私が脱がしてやろうか？

ボタンは自分で留めれるか？ ふふふ…♡

大丈夫だというのなら、今日もいっしょに働くぞ♡

昼間にたっぷり汗をかいた方が、夜の酒は美味いんだからな♡

ふふふふふ…♡ チュッ♡」

レ「おいおい、また寝坊か？

昨日もそんなに夜更かしたのか？

まったく…♡」

ヨ「毎日毎日、私たちに起こされないといけないとは…♡

まだまだだな、少年♡」

レ「ふふ…♡

そう無理して起きなくてもいいんだぞ？

おねむというのなら、そのまま寝ていろ♡

それが嫌なら…早くベッドから出てくるんだ♡」

ヨ「今日も仕事で忙しいぞ？

私たちに着いてくる気があるんなら、

早く起きて、こっちに来い♡

待ってるからな…♡ ふふふふふ…♡
「♡

レ「ほうら、ボク…♡

早く起きろ…♡

起きてこっちに…♡

私たちの母乳…♡ 飲みに来い…♡」

ヨ「朝から溢れて大変なんだぞ…♡

ボウヤのために出てくる母乳…♡

いっぱいちゅうちゅうしていいからな…♡」

レ「ああ、そうだ…♡

ベッドから出て、あたしたちの方に…♡」

ヨ「お目覚めおっぱいミルク…♡

いっぱいぐくぐくしていいからな…♡ チュッ♡」

レ「おはようおっぱい…♡

いただきます…♡

ふふふふ…♡ チュッ♡」

レ「ふふ…♡

もう寝るのか？ さすがに早いな…♡

まあ、まだまだボクは、そういう年だからな…♡ 仕方がない…♡

一人でちゃんと眠れるか？

あたしが添い寝してやろうか？

あったかくして、寂しくならないように…♡

ふふふ…♡

はは、そこまで子供じゃないか♡ 言ってくれる…♡

なら、おやすみ…♡

また明日も、いっしょにがんばろうな…♡

ふふふ…♡ チュッ♡」

◆
⑥

ヨ「さあ、ボウヤ…♡

おねむの時間だ…♡

お布団に入って、ぐっすり眠るといい…♡

何？ まだ眠くないだと？

そんなことはない…♡ 今日もたっぷり働いたんだ♡
身体は疲れているはずだぞ♡

大人しくベッドに入って、目を閉じるんだ♡ ほら…♡

どんどん、だんだん、眠くなる…♡

明日のために、今日はしっかり休むんだぞ…♡

おやすみなさい…♡

大事なボウヤ…♡ ふふふふふ…♡ チュッ♡」

レ「何？ いっしょに眠りたいのか？

ふふふ…♡

ああ、いいだろう♡ ほら、こっちに来い♡」

ヨ「三人いっしょに同じ布団か…♡

きっと温かいぞ…♡

ぐっすり眠れるだろうなあ…♡」

レ「どうだ？ 気持ちいいか？

あたしたちに包まれて…♡

柔らかか肉布団だぞ…♡」

ヨ「これで気持ちよく眠れるな♡

大人しく、眠りにつけば…だが…♡」

レ「まあ、それはボク次第…♡

今はひとまず…♡」

ヨ「おやすみなさい、だ…♡

さあ、目を閉じて…♡

ゆっくり休もうな…♡ ふふふ…♡」

レ「はあい、ボク…♡ おねむの時間でちゅよお…♡

お姉さんたちのおっぱい飲みながら…♡

今日もぐっすり眠りまちようねえ…♡」

ヨ「おっぱいちゅうちゅ…♡

ぐくぐくちゅちゅ…♡

母乳おいしいでちゅかあ…♡

美味しいお姉さんミルク飲んでればあ、

朝までゆ〜っくり、眠れまちゅからねえ…♡」

レ「二人の母乳、いっぱい飲んで…♡

幸せそうでちゅねえ…♡」

ヨ「なら、夢の中でもいいっぱい幸せになれるよう…♡

お姉さんたちに挟まれながら、眠りまちようねえ…♡」

レ「おやすみなさあい、ボクう…♡

ふふふふふ…♡ チュッ♡」

ヨ「おやすみなさあい、ボウヤ…♡

ふふふ…♡ チュッ♡」

レ「さあ、準備はいいか？　すべての基本は準備にある。

どのようなことだろうといっしょだ。

準備さえ整っていれば、あとは何が起こきようと心配はない。

そうだろう？

準備さえできているのであれば、出発だ。

今日はボク一人での仕事なんだ…。

無事に帰ってくるんだぞ？

別に、心配しているわけじゃないが…。

急に知り合いがいなくなると、酒がまずくなるからな…。

無事に帰ってこいよ…♡

いってらっしゃい…♡ チュッ♡」

ヨ「うゝん…やはり、心配だな…。

ボウヤ一人での仕事とは…。

危険はないと確認はしたが、何が起こるかわからないのが、

私たち冒険者の仕事というものだ…。

忘れ物はないか？

道具はしっかり持ったな？

手入れも行き届いているな。

ううむ…やはり、私も着いていくべきか…？

…なんて言っているのは、よくもないか…。

ああ、わかった。私も覚悟を決めたよ。

いってらっしゃい。

ボウヤが無事に帰ってくること…信じてるからな♡

ふふふ…♡ チュッ♡
「♡」

レ「本当に一人でできるのか？」

そう簡単でもない仕事だぞ、こいつは…。」

ヨ「そうだな…。」

確かに私も心配だ。

だが、私たちも私たちが、他の仕事がある。

ここはボウヤに任せるしかあるまい。」

レ「いいか？ あらゆる可能性を疑ってかかるんだぞ？」

危険は腕前で察知するものだ。

決して油断するんじゃないぞ？」

ヨ「無事に帰って来れたら、また三人で飲もうじゃないか。

だから…無茶はするなよ？

わかったな？」

レ「そうか、なら…♡」

レ「いってらっしゃい…♡ チュッ♡」

ヨ「いってらっしゃい…♡ チュッ♡」

レ「ボクう…♡　ほうら…♡

いってらっしゃいの、おっぱいだぞお…♡

おっぱい、ちゅっちゅう…♡」

ヨ「今日もボウヤ一人の仕事で心配だ…♡

でも、そんな時でも…♡

こうして私たちの母乳を飲めば…♡」

レ「元気いっぱい…♡　力も付いて…♡

安全に仕事をこなせるからな…♡

たくさん飲むんだぞ…♡

よしよし、よしよし…♡」

ヨ「帰ってきたら、また飲ませてやるからな…♡

疲れも一気に吹き飛ぶ美味しいミルク…♡

たっぷりと…♡」

レ「ああ、いってらっしゃい…♡

帰ってくるまでしっかり溜めておくからな…♡ チュッ♡」

ヨ「しっかりがんばってくるんだぞ♡

いってらっしゃい♡

ふふふふふ…♡ チュッ♡」